

内閣府青年国際交流事業
既参加日本青年フォローアップ調査
報告書

平成 27 年度(2015 年度)及び令和元年度(2019 年度)
内閣府青年国際交流事業既参加日本青年

一般財団法人 青少年国際交流推進センター
令和 2 年度(2020 年度)

<目 次>

第 1 調査の概要	2
1. 調査の目的	2
2. 調査の時期	2
3. 調査の対象者	2
4. 調査事項	2
5. 調査の方法	3
6. 調査の委嘱	3
第 2 回答者の特性	4
第 3 調査結果	5
第 4 付録	26

第1 調査の概要

1. 調査の目的

内閣府では、青少年育成の一環として、昭和34年以来、数々の青年国際交流事業を継続して行ってきた。これらの交流事業は、日本と諸外国の青年相互の理解と友好の促進、国際性を備えた青少年の育成及びその経験をいかした成果の地域・職域等への還元を図ることを目的として実施されている。

このような青年国際交流事業の趣旨を踏まえ、参加青年が事業に参加後、一定の時間が経過した時点で国際交流等に関しどのような認識を有しているか、また、実際の事後活動がどの程度の規模・頻度でどのように行われているか等、事業の諸効果を的確に把握するため、国際交流事業に参加した青年の意識や事後活動の実態、参加意欲などを調査し、もって今後の青少年に関する各種施策の推進に資することを目的とする。

2. 調査の時期

令和2年(2020年)12月25日(金)～令和3年(2021年)1月25日(月)

3. 調査の対象者

平成27年度(2015年度)及び令和元年度(2019年度)内閣府青年国際交流事業
日本参加青年528名
(団長、副団長、渉外、ナショナルリーダー、サブナショナルリーダーを除く)

<内訳>

平成27年度(2015年度)

・国際青年育成交流事業	41名
・日本・中国青年親善交流事業	25名
・日本・韓国青年親善交流事業	24名
・青年社会活動コアリーダー育成プログラム	23名
・「東南アジア青年の船」事業	37名
・次世代グローバルリーダー事業	121名
合計	271名

令和元年度(2019年度)

・国際社会青年育成事業	35名
・日本・中国青年親善交流事業	23名
・日本・韓国青年親善交流事業	25名
・地域課題対応人材育成事業「地域コアリーダープログラム」	24名
・「東南アジア青年の船」	37名
・「世界青年の船」事業	113名
合計	257名

4. 調査事項

- (1) 青年国際交流事業への参加による意識の変化
- (2) 青年国際交流事業の成果
- (3) 成果の社会への還元方法
- (4) 青年国際交流事業の在り方(プログラムの内容、構成等)
- (5) 事業終了後の既参加青年のネットワークへの参加の程度

5. 調査の方法

- (1) 質問票の発信 令和2年(2020年)12月25日(金)
- (2) 回答締め切り 令和3年(2021年)1月25日(月)
- (3) 連絡先把握数
 - ・平成27年度(2015年度)参加青年 245名
 - ・令和元年度(2019年度)参加青年 253名
- (4) 回収数及び回収率
 - ・平成27年度(2015年度)参加青年 135通(回収率55.1%)
 - ・令和元年度(2019年度)参加青年 199通(回収率78.7%)

6. 調査の委嘱

調査事項の設定は、内閣府青年国際交流担当室が行い、質問票の企画、調査の実施、集計結果分析及び結果報告書の作成を一般財団法人青少年国際交流推進センターに委嘱した。

本書を読む際の注意

1. 比較の数値(パーセンテージ)は、小数第二位を四捨五入し、少数第一位までとする。
2. 0人、0%は該当者がいないことを示す。
3. 図表においては、回答分の一部(原則として後半部分)を省略している場合がある。正確な回答分は回答部分によって確かめられたい。

第2 回答者の特性

問1.あなたが内閣府青年国際交流事業に参加したのは何年度ですか。

参加年度	回答数	連絡先把握数	回収率
平成27年度	135 (名)	231 (名)	58.4%
令和元年度	199 (名)	252 (名)	79.0%

問2.あなたが参加した事業名は何ですか。

平成27年度	回答数	連絡先把握数	回収率
国際青年育成交流事業	24 (名)	36 (名)	66.7%
日本・中国青年親善交流事業	10 (名)	18 (名)	55.6%
日本・韓国青年親善交流事業	6 (名)	22 (名)	27.3%
青年社会活動コアリーダー育成プログラム	9 (名)	21 (名)	42.9%
「東南アジア青年の船」事業	16 (名)	35 (名)	45.7%
次世代グローバルリーダー事業	70 (名)	99 (名)	70.7%
合計	135 (名)	231 (名)	58.4%
令和元年度	回答数	連絡先把握数	回収率
国際社会青年育成事業	30 (名)	33 (名)	90.9%
日本・中国青年親善交流事業	15 (名)	23 (名)	65.2%
日本・韓国青年親善交流事業	19 (名)	24 (名)	79.2%
地域課題対応人材育成事業「地域コアリーダープログラム」	24 (名)	24 (名)	100.0%
「東南アジア青年の船」事業	33 (名)	37 (名)	89.2%
「世界青年の船」事業	78 (名)	111 (名)	70.3%
合計	199 (名)	252 (名)	79.0%

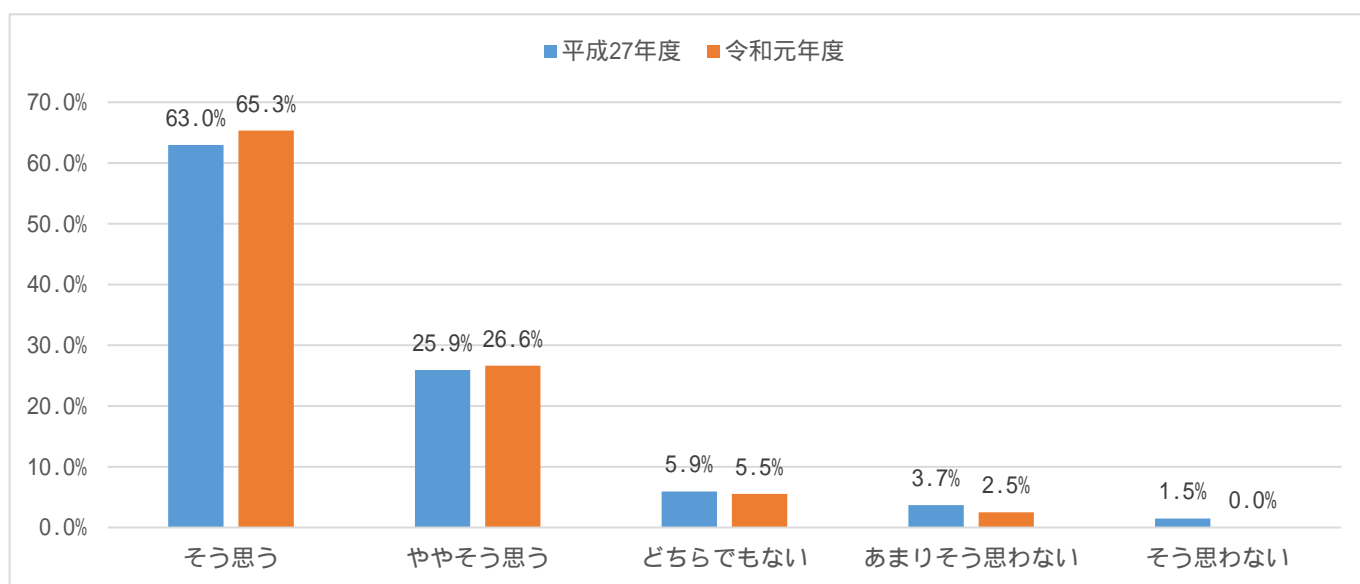
第3 調査結果

< 内閣府青年国際交流事業への参加による影響について伺います。 >

問 3.5 年前又は1年前、内閣府の青年国際交流事業に参加したことで、その後の5年間又は1年間であなただにどのような影響がありましたか。以下の a から f に挙げる項目について、該当するものをそれぞれ一つお選びください。

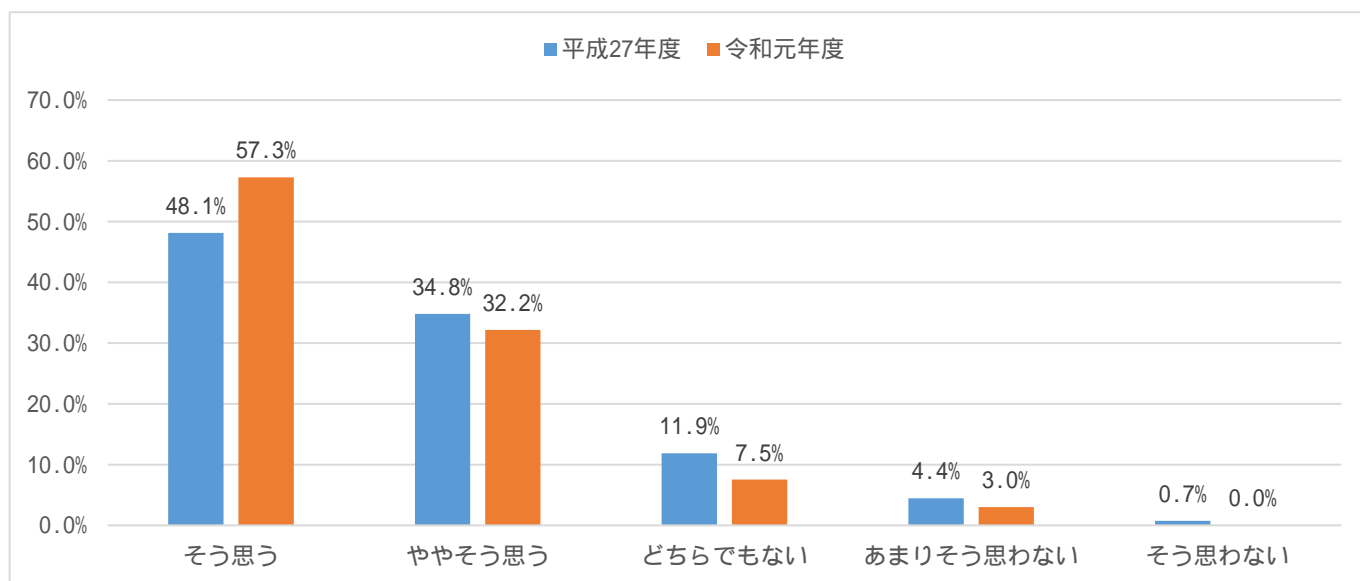
a. 事業に参加したことで、国際社会に貢献する仕事や活動に関心を持ち、キャリア形成に役立っている。

平成27年度	そう思う	ややそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない	合計
航空機事業	23 (名)	12 (名)	3 (名)	1 (名)	1 (名)	40 (名)
	57.5%	30.0%	7.5%	2.5%	2.5%	100%
船事業	57 (名)	19 (名)	5 (名)	4 (名)	1 (名)	86 (名)
	66.3%	22.1%	5.8%	4.7%	1.2%	100%
コア事業	5 (名)	4 (名)	0 (名)	0 (名)	0 (名)	9 (名)
	55.6%	44.4%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
合計	85 (名)	35 (名)	8 (名)	5 (名)	2 (名)	135 (名)
	63.0%	25.9%	5.9%	3.7%	1.5%	100%
令和元年度	そう思う	ややそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない	合計
航空機事業	35 (名)	21 (名)	5 (名)	3 (名)	0 (名)	64 (名)
	54.7%	32.8%	7.8%	4.7%	0.0%	100%
船事業	79 (名)	26 (名)	5 (名)	1 (名)	0 (名)	111 (名)
	71.2%	23.4%	4.5%	0.9%	0.0%	100%
コア事業	16 (名)	6 (名)	1 (名)	1 (名)	0 (名)	24 (名)
	66.7%	25.0%	4.2%	4.2%	0.0%	100%
合計	130 (名)	53 (名)	11 (名)	5 (名)	0 (名)	199 (名)
	65.3%	26.6%	5.5%	2.5%	0.0%	100%



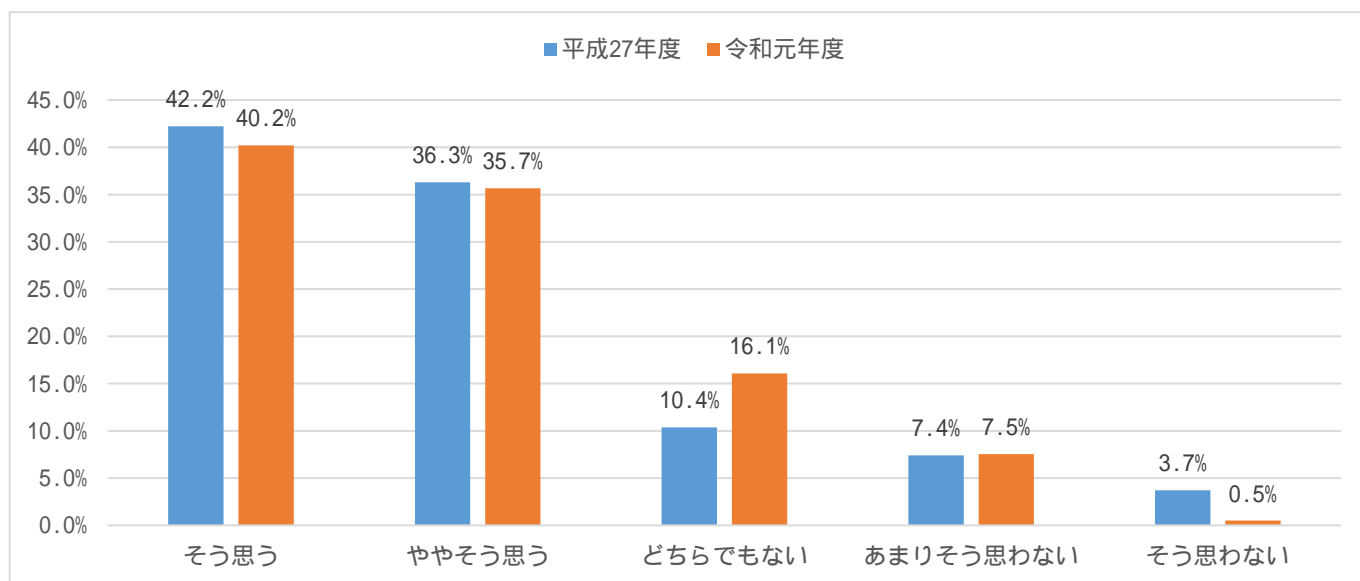
b. 事業に参加したことで、地域社会に貢献する仕事や活動に関心を持ち、キャリア形成に役立っている。

平成27年度	そう思う	ややそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない	合計
航空機事業	16 (名)	13 (名)	8 (名)	3 (名)	0 (名)	40 (名)
	40.0%	32.5%	20.0%	7.5%	0.0%	100%
船事業	44 (名)	30 (名)	8 (名)	3 (名)	1 (名)	86 (名)
	51.2%	34.9%	9.3%	3.5%	1.2%	100%
コア事業	5 (名)	4 (名)	0 (名)	0 (名)	0 (名)	9 (名)
	55.6%	44.4%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
合計	65 (名)	47 (名)	16 (名)	6 (名)	1 (名)	135 (名)
	48.1%	34.8%	11.9%	4.4%	0.7%	100%
令和元年度	そう思う	ややそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない	合計
航空機事業	26 (名)	28 (名)	6 (名)	4 (名)	0 (名)	64 (名)
	40.6%	43.8%	9.4%	6.3%	0.0%	100%
船事業	72 (名)	28 (名)	9 (名)	2 (名)	0 (名)	111 (名)
	64.9%	25.2%	8.1%	1.8%	0.0%	100%
コア事業	16 (名)	8 (名)	0 (名)	0 (名)	0 (名)	24 (名)
	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
合計	114 (名)	64 (名)	15 (名)	6 (名)	0 (名)	199 (名)
	57.3%	32.2%	7.5%	3.0%	0.0%	100%



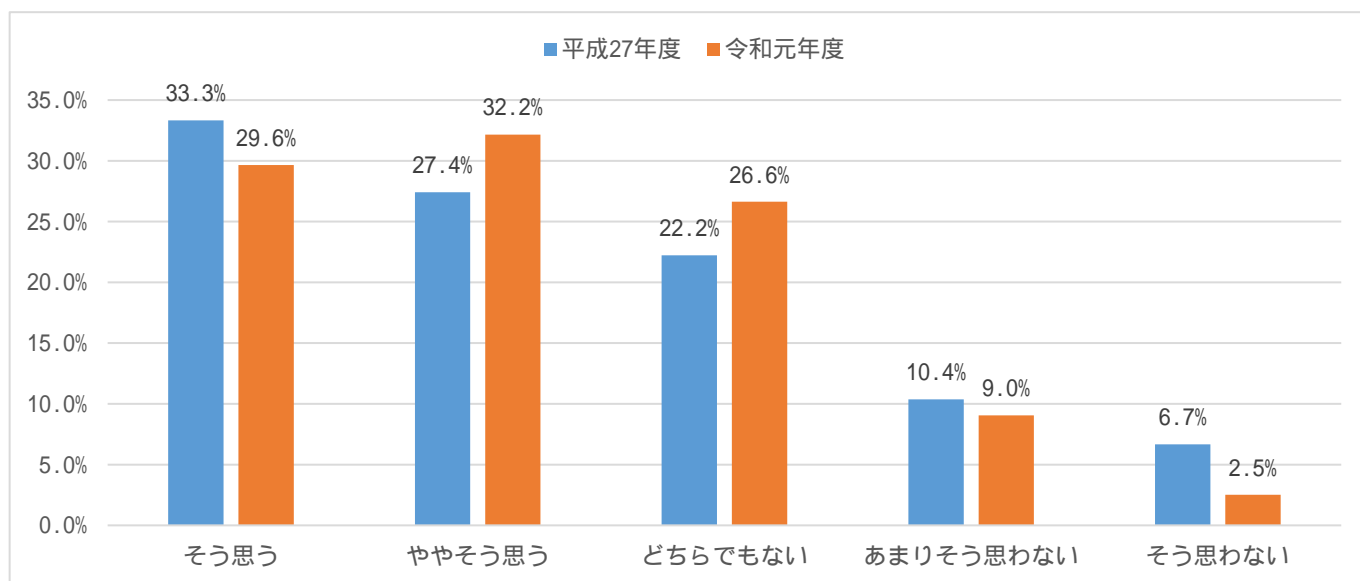
c. 事業で得たリーダーシップやマネジメント能力を発揮する具体的な機会を得た。

平成27年度	そう思う	ややそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない	合計
航空機事業	12 (名)	18 (名)	6 (名)	4 (名)	0 (名)	40 (名)
	30.0%	45.0%	15.0%	10.0%	0.0%	100%
船事業	40 (名)	28 (名)	8 (名)	5 (名)	5 (名)	86 (名)
	46.5%	32.6%	9.3%	5.8%	5.8%	100%
コア事業	5 (名)	3 (名)	0 (名)	1 (名)	0 (名)	9 (名)
	55.6%	33.3%	0.0%	11.1%	0.0%	100%
合計	57 (名)	49 (名)	14 (名)	10 (名)	5 (名)	135 (名)
	42.2%	36.3%	10.4%	7.4%	3.7%	100%
令和元年度	そう思う	ややそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない	合計
航空機事業	22 (名)	23 (名)	12 (名)	6 (名)	1 (名)	64 (名)
	34.4%	35.9%	18.8%	9.4%	1.6%	100%
船事業	51 (名)	34 (名)	17 (名)	9 (名)	0 (名)	111 (名)
	45.9%	30.6%	15.3%	8.1%	0.0%	100%
コア事業	7 (名)	14 (名)	3 (名)	0 (名)	0 (名)	24 (名)
	29.2%	58.3%	12.5%	0.0%	0.0%	100%
合計	80 (名)	71 (名)	32 (名)	15 (名)	1 (名)	199 (名)
	40.2%	35.7%	16.1%	7.5%	0.5%	100%



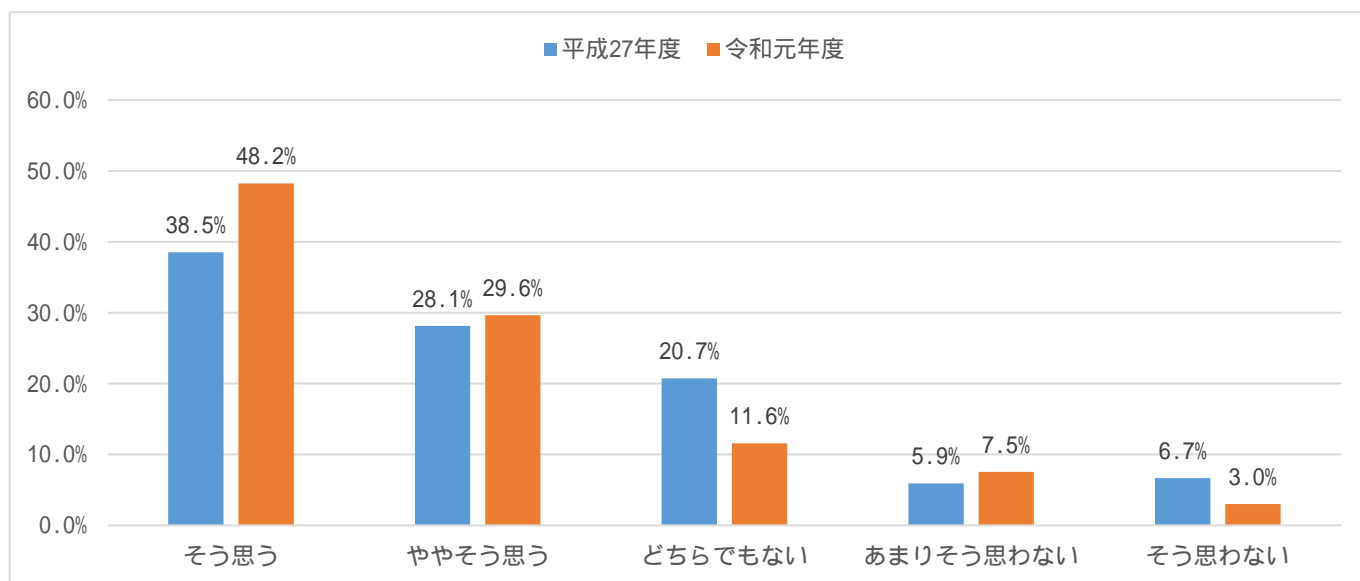
d. 事業参加経験をきっかけに社会貢献（ボランティア活動等）に取り組むようになった。

平成27年度	そう思う	ややそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない	合計
航空機事業	11 (名)	9 (名)	11 (名)	6 (名)	3 (名)	40 (名)
	27.5%	22.5%	27.5%	15.0%	7.5%	100%
船事業	29 (名)	27 (名)	17 (名)	8 (名)	5 (名)	86 (名)
	33.7%	31.4%	19.8%	9.3%	5.8%	100%
コア事業	5 (名)	1 (名)	2 (名)	0 (名)	1 (名)	9 (名)
	55.6%	11.1%	22.2%	0.0%	11.1%	100%
合計	45 (名)	37 (名)	30 (名)	14 (名)	9 (名)	135 (名)
	33.3%	27.4%	22.2%	10.4%	6.7%	100%
令和元年度	そう思う	ややそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない	合計
航空機事業	18 (名)	18 (名)	16 (名)	10 (名)	2 (名)	64 (名)
	28.1%	28.1%	25.0%	15.6%	3.1%	100%
船事業	34 (名)	37 (名)	30 (名)	8 (名)	2 (名)	111 (名)
	30.6%	33.3%	27.0%	7.2%	1.8%	100%
コア事業	7 (名)	9 (名)	7 (名)	0 (名)	1 (名)	24 (名)
	29.2%	37.5%	29.2%	0.0%	4.2%	100%
合計	59 (名)	64 (名)	53 (名)	18 (名)	5 (名)	199 (名)
	29.6%	32.2%	26.6%	9.0%	2.5%	100%



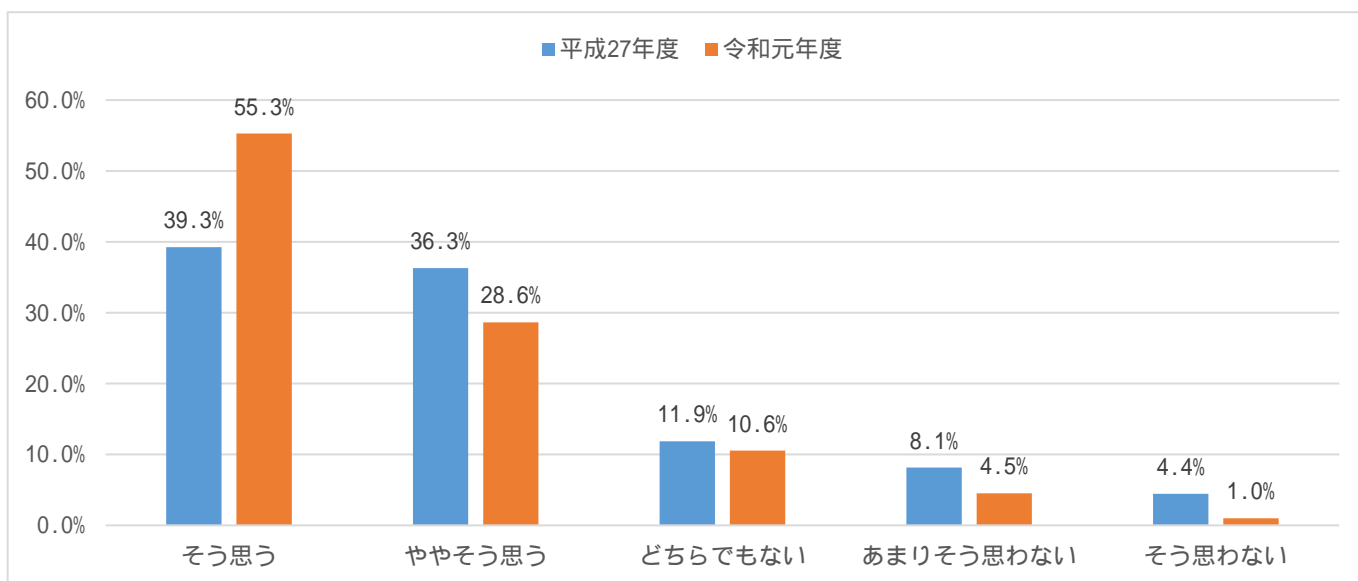
e. 事業で得た国際的人的ネットワークが自分のキャリア形成を行う際に役立っている。

平成27年度	そう思う	ややそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない	合計
航空機事業	8 (名)	14 (名)	11 (名)	4 (名)	3 (名)	40 (名)
	20.0%	35.0%	27.5%	10.0%	7.5%	100%
船事業	41 (名)	23 (名)	13 (名)	3 (名)	6 (名)	86 (名)
	47.7%	26.7%	15.1%	3.5%	7.0%	100%
コア事業	3 (名)	1 (名)	4 (名)	1 (名)	0 (名)	9 (名)
	33.3%	11.1%	44.4%	11.1%	0.0%	100%
合計	52 (名)	38 (名)	28 (名)	8 (名)	9 (名)	135 (名)
	38.5%	28.1%	20.7%	5.9%	6.7%	100%
令和元年度	そう思う	ややそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない	合計
航空機事業	25 (名)	19 (名)	8 (名)	7 (名)	5 (名)	64 (名)
	39.1%	29.7%	12.5%	10.9%	7.8%	100%
船事業	65 (名)	30 (名)	9 (名)	6 (名)	1 (名)	111 (名)
	58.6%	27.0%	8.1%	5.4%	0.9%	100%
コア事業	6 (名)	10 (名)	6 (名)	2 (名)	0 (名)	24 (名)
	25.0%	41.7%	25.0%	8.3%	0.0%	100%
合計	96 (名)	59 (名)	23 (名)	15 (名)	6 (名)	199 (名)
	48.2%	29.6%	11.6%	7.5%	3.0%	100%



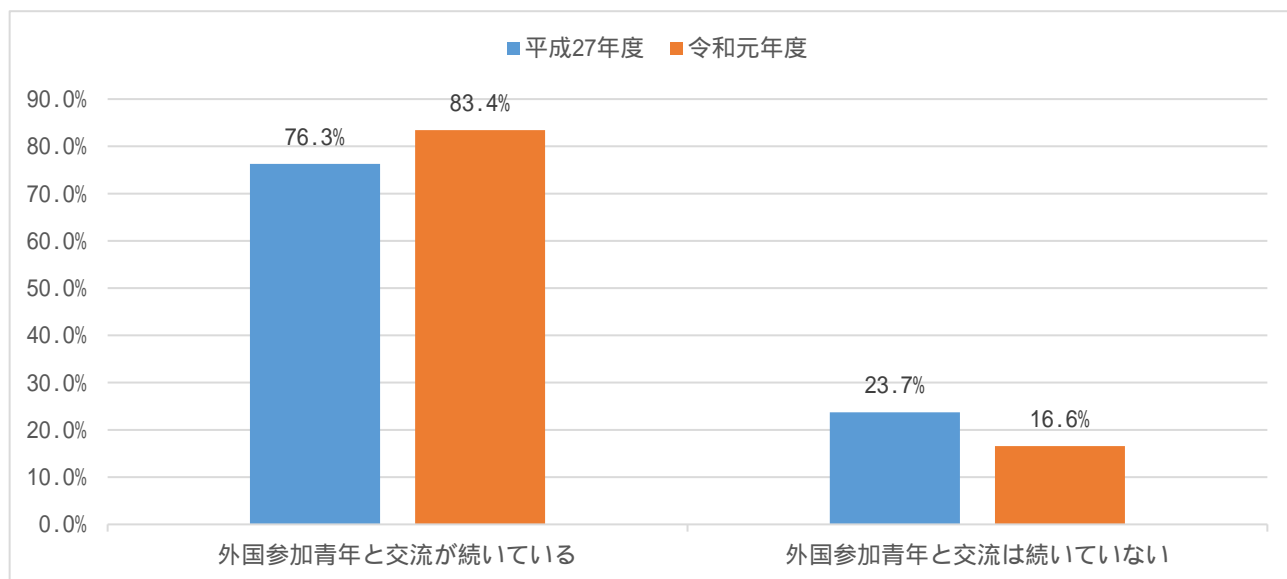
f. 事業で得た国内の人的ネットワークが自分のキャリア形成を行う際に役立っている。

平成27年度	そう思う	ややそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない	合計
航空機事業	11 (名)	17 (名)	8 (名)	3 (名)	1 (名)	40 (名)
	27.5%	42.5%	20.0%	7.5%	2.5%	100%
船事業	38 (名)	27 (名)	8 (名)	8 (名)	5 (名)	86 (名)
	44.2%	31.4%	9.3%	9.3%	5.8%	100%
コア事業	4 (名)	5 (名)	0 (名)	0 (名)	0 (名)	9 (名)
	44.4%	55.6%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
合計	53 (名)	49 (名)	16 (名)	11 (名)	6 (名)	135 (名)
	39.3%	36.3%	11.9%	8.1%	4.4%	100%
令和元年度	そう思う	ややそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない	合計
航空機事業	32 (名)	20 (名)	6 (名)	4 (名)	2 (名)	64 (名)
	50.0%	31.3%	9.4%	6.3%	3.1%	100%
船事業	65 (名)	27 (名)	15 (名)	4 (名)	0 (名)	111 (名)
	58.6%	24.3%	13.5%	3.6%	0.0%	100%
コア事業	13 (名)	10 (名)	0 (名)	1 (名)	0 (名)	24 (名)
	54.2%	41.7%	0.0%	4.2%	0.0%	100%
合計	110 (名)	57 (名)	21 (名)	9 (名)	2 (名)	199 (名)
	55.3%	28.6%	10.6%	4.5%	1.0%	100%



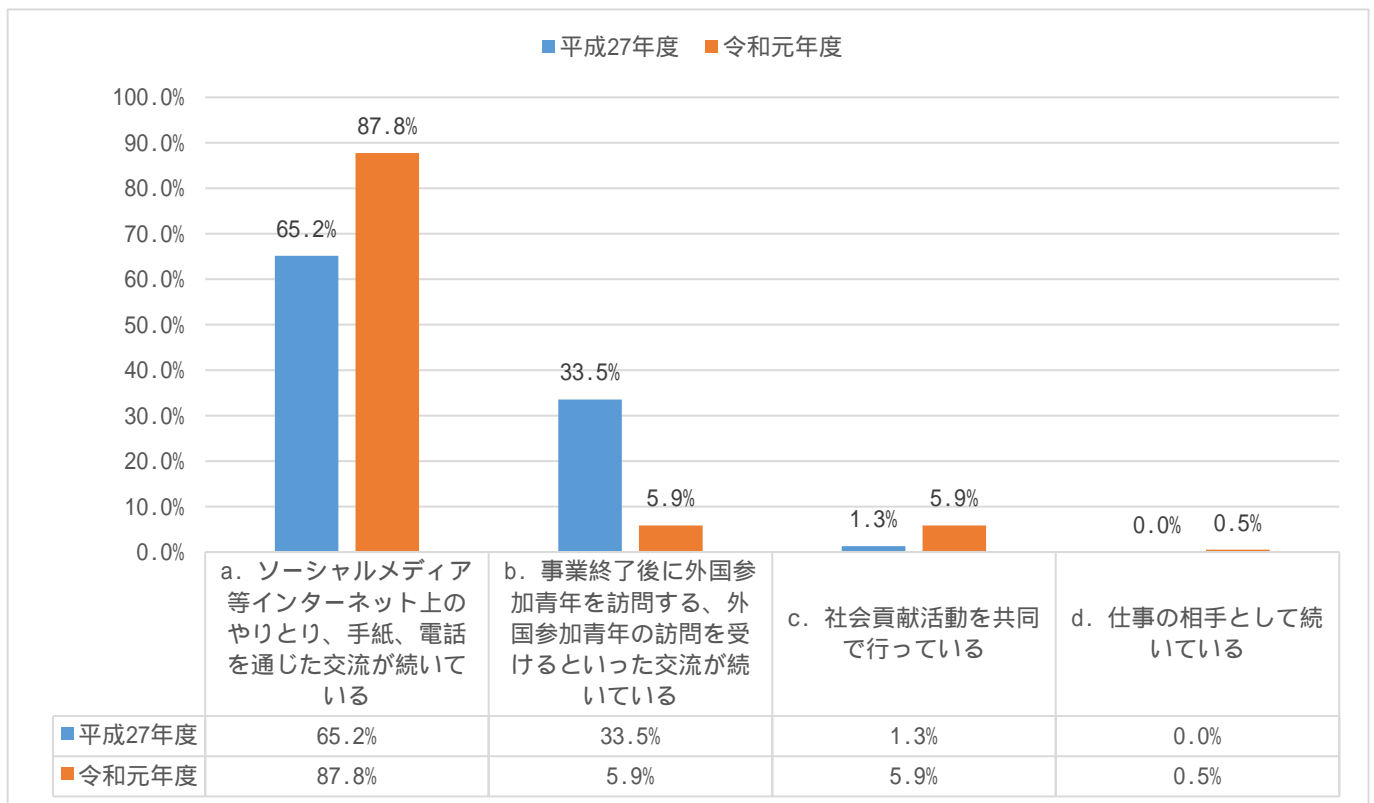
問 4. あなたは、同じ事業に参加した外国人の参加青年と現時点でも交流が続いていますか。

	外国参加青年と交流が続いている	外国参加青年と交流は続いていない	合計
平成27年度合計	103 (名)	32 (名)	135 (名)
	76.3%	23.7%	100%
令和元年度合計	166 (名)	33 (名)	199 (名)
	83.4%	16.6%	100%



問 4-1. 【外国参加青年と交流が続いている】と答えた方は、交流の内容について、以下から選択してください。(複数選択可) また、c.d を選んだ方は具体的な内容を記載してください。

	a. ソーシャルメディア等インターネット上のやりとり、手紙、電話を通じた交流が続いている	b. 事業終了後に外国参加青年を訪問する、外国参加青年の訪問を受けるといった交流が続いている	c. 社会貢献活動を共同で行っている	d. 仕事の相手として続いている	合計
平成27年度合計	101 (名)	52 (名)	2 (名)	0 (名)	155 (名)
	65.2%	33.5%	1.3%	0.0%	100%
令和元年度合計	165 (名)	11 (名)	11 (名)	1 (名)	188 (名)
	87.8%	5.9%	5.9%	0.5%	100%



【問 4-1-c. 社会貢献活動を共同で行っている】と回答された方のみ。具体的な内容を記載してください。

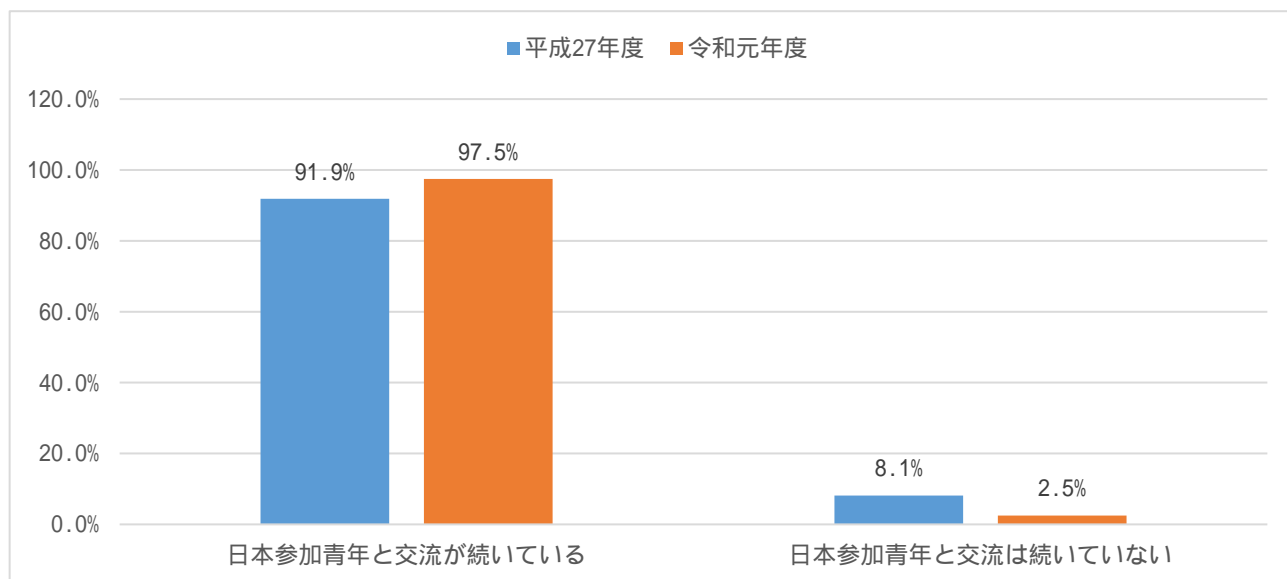
- ・ 事業後にオンライン上の国際交流イベントを共同で開催した。
- ・ ミャンマーの日本語教育の手伝いをしてもらった。
- ・ フィリピンの小学校にて、平和教育に関するワークショップをフィリピンの既参加青年と共に行った。そこで折られた千羽鶴を長崎の中学生に協力を仰ぎ平和公園に奉納した。
- ・ 当該国で災害が起きた際の基金の依頼や、教育のボランティアなどの情報、世界で献血を同じ時期に実施するなどの情報を定期的にもらっている。
- ・ ユースワークに関する勉強会を一緒に実施したり、私の地域のこども向けのイベントでゲストで動画で登場してもらったりしている。
- ・ フィンランドで学んだデジタルユースワークについて、学びを深めるために少数のオンライン勉強会を実施した。スピーカーとして、事後プログラムで日本に来たフィンランド団のメンバー(デジタルユースワーカー)に話を伺った。

【問 4-1-d. 仕事の相手として続いている】と回答された方のみ。具体的な内容を記載してください。

- ・ 海外参加青年が関与する企業の日本展開

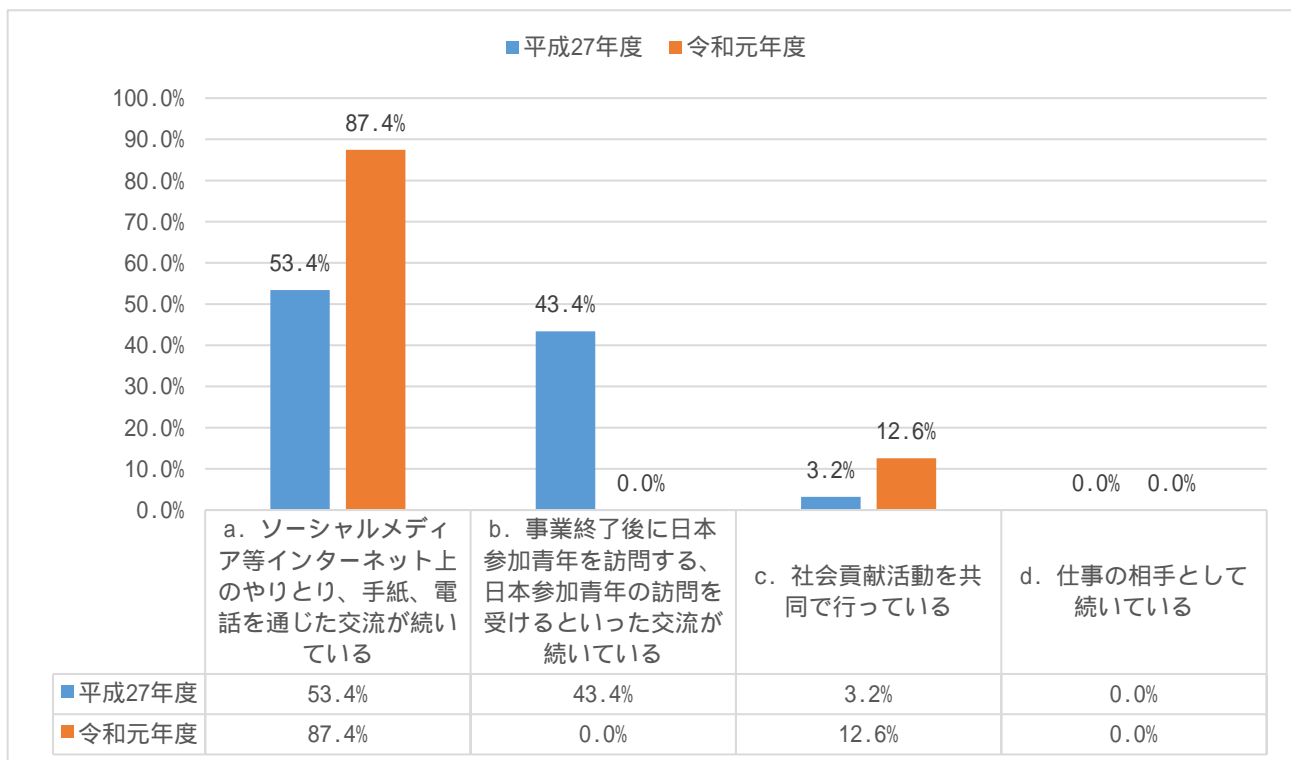
問 5. あなたは、同じ事業に参加した日本参加青年と現時点でも交流が続いていますか。

	日本参加青年と交流が続いている	日本参加青年と交流は続いていない	合計
平成27年度合計	124 (名)	11 (名)	135 (名)
	91.9%	8.1%	100%
令和元年度合計	194 (名)	5 (名)	199 (名)
	97.5%	2.5%	100%



問 5-1. 【日本参加青年と交流が続いている】と答えた方は、交流の内容について、以下から選択してください。(複数選択可) また、c.d を選んだ方は具体的な内容を記載してください。

	a. ソーシャルメディア等インターネット上のやりとり、手紙、電話を通じた交流が続いている	b. 事業終了後に日本参加青年を訪問する、日本参加青年の訪問を受けるといった交流が続いている	c. 社会貢献活動を共同で行っている	d. 仕事の相手として続いている	合計
平成27年度合計	117 (名)	95 (名)	7 (名)	0 (名)	219 (名)
	53.4%	43.4%	3.2%	0.0%	100%
令和元年度合計	188 (名)	0 (名)	27 (名)	0 (名)	215 (名)
	87.4%	0.0%	12.6%	0.0%	100%



【問 5-1-c. 社会貢献活動を共同で行っている】と回答された方のみ、具体的な内容を記載してください。

- ・ 子供の教育支援プロジェクト
- ・ 国際理解教育に関わるセミナーを共同で行った。
- ・ IYEO オリパラ支援ボランティア
- ・ 地元の IYEO を通じてキャリアイベントをオンラインで行った。
- ・ 参加事業の報告会イベントを共同で複数回実施。共同でユースワークに関する情報発信や勉強会を開催
- ・ 自身が運営する非営利団体（環境保全団体）のイベント等に参加してもらっている。
- ・ オンラインで災害復興クラウドファンディングを実施した際に仲間として入ってもらった。
- ・ 地域コアリーダープログラムで得た学びや派遣先の紹介をするため本の執筆を派遣団員全員で行っている。春には出版を行う予定。
- ・ 事業後にオンライン上の国際交流イベントを企画・実施した。
- ・ 内閣府事業出身者の有志で社団法人を立ち上げ、コーチングやピッチイベントを通して将来の参加者の背中を後押ししている。
- ・ フィンランドのデジタルユースワークを学ぶために、フィンランドへのオンラインインタビューを行い、note を使って発信している。
- ・ 東南アジア青年の船 45 期の事後活動である SEE YOU SOON プロジェクト（日本と東南アジアの高校生を繋ぐ活動）に 46 期として参加し、共同で取り組んでいる。

【問 5-1-d. 仕事の相手として続いている】と回答された方のみ、具体的な内容を記載してください。

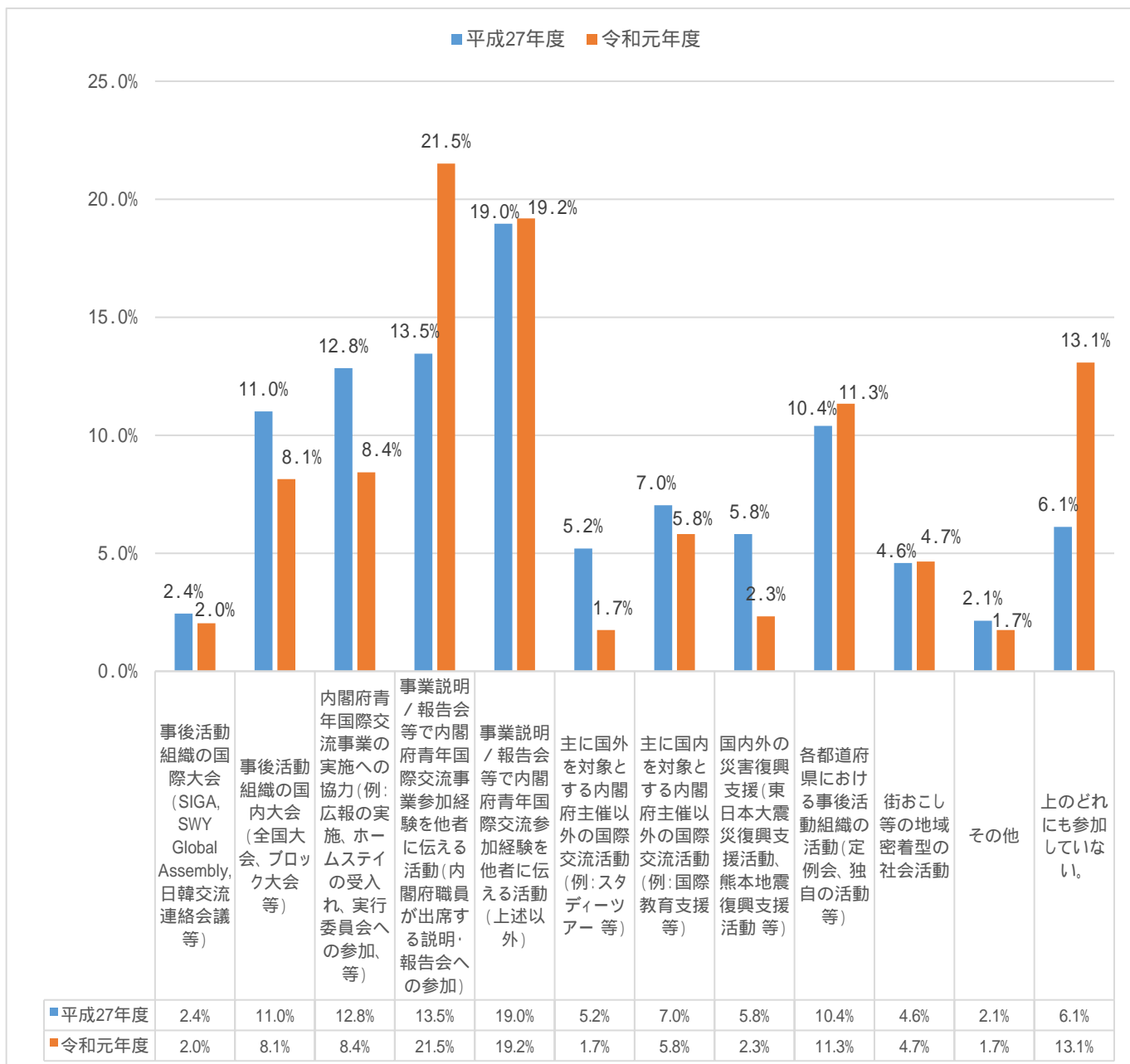
- ・ 地域作業療法学の授業のゲストスピーカーとして、日本参加青年に仕事の内容を含め講義いただいた。臨床実習の指導者として関わっていただいている。
- ・ 高校生向けの探求学習プログラムにおいて、高校生の活動をサポートするコーディネーターとして関わってもらっている。
- ・ お互いにイラストが趣味だった方とイラストレーターとしてユニットを組み、埼玉と沖縄で活動を始めた。既参加青年からイラストの依頼をもらうこともある。
- ・ 私が運営メンバーとして運営しているウェブメディア型オンラインサロンに、参加青年の方にゲストとして登壇してもらった。また、ライターとして運営メンバーに参加してもらった。

＜「事後活動」について伺います。＞

内閣府の青年国際交流事業において、事業実施中の活動ではなく、事業参加後、事業で得た学びを広く社会に還元することを目的にした活動を「事後活動」と呼んでいます。

問 6.5 年前又は 1 年前に事業に参加した後、その後の 5 年間又は 1 年間に以下の事後活動に参加しましたか。（複数選択可）

年度	事後活動組織の国際大会（SIGA, SWY Global Assembly, 日韓交流連絡会議等）	事後活動組織の国内大会（全国大会、ブロック大会等）	内閣府青年国際交流事業の実施への協力（例：広報の実施、ホームステイの受け入れ、実行委員会への参加、等）	事業説明 / 報告会等で内閣府青年国際交流事業参加経験を他者に伝える活動（内閣府職員が出席する説明・報告会への参加）	事業説明 / 報告会等で内閣府青年国際交流事業参加経験を他者に伝える活動（上述以外）	主に国外を対象とする内閣府主催以外の国際交流活動（例：スタディーツアー等）	主に国内を対象とする内閣府主催以外の国際交流活動（例：国際教育支援等）
平成27年度	2 (名) 2.4%	10 (名) 12.0%	10 (名) 12.0%	8 (名) 9.6%	15 (名) 18.1%	7 (名) 8.4%	7 (名) 8.4%
航空機事業	2 (名) 2.4%	10 (名) 12.0%	10 (名) 12.0%	8 (名) 9.6%	15 (名) 18.1%	7 (名) 8.4%	7 (名) 8.4%
船事業	6 (名) 2.9%	20 (名) 9.6%	26 (名) 12.4%	32 (名) 15.3%	41 (名) 19.6%	9 (名) 4.3%	15 (名) 7.2%
コア事業	0 (名) 0.0%	6 (名) 17.1%	6 (名) 17.1%	4 (名) 11.4%	6 (名) 17.1%	1 (名) 2.9%	1 (名) 2.9%
合計	8 (名) 2.4%	36 (名) 11.0%	42 (名) 12.8%	44 (名) 13.5%	62 (名) 19.0%	17 (名) 5.2%	23 (名) 7.0%
令和元年度	事後活動組織の国際大会（SIGA, SWY Global Assembly, 日韓交流連絡会議等）	事後活動組織の国内大会（全国大会、ブロック大会等）	内閣府青年国際交流事業の実施への協力（例：広報の実施、ホームステイの受け入れ、実行委員会への参加、等）	事業説明 / 報告会等で内閣府青年国際交流事業参加経験を他者に伝える活動（内閣府職員が出席する説明・報告会への参加）	事業説明 / 報告会等で内閣府青年国際交流事業参加経験を他者に伝える活動（上述以外）	主に国外を対象とする内閣府主催以外の国際交流活動（例：スタディーツアー等）	主に国内を対象とする内閣府主催以外の国際交流活動（例：国際教育支援等）
航空機事業	4 (名) 4.0%	10 (名) 9.9%	12 (名) 11.9%	25 (名) 24.8%	15 (名) 14.9%	3 (名) 3.0%	5 (名) 5.0%
船事業	3 (名) 1.6%	8 (名) 4.2%	12 (名) 6.3%	44 (名) 23.3%	40 (名) 21.2%	3 (名) 1.6%	13 (名) 6.9%
コア事業	0 (名) 0.0%	10 (名) 18.5%	5 (名) 9.3%	5 (名) 9.3%	11 (名) 20.4%	0 (名) 0.0%	2 (名) 3.7%
合計	7 (名) 2.0%	28 (名) 8.1%	29 (名) 8.4%	74 (名) 21.5%	66 (名) 19.2%	6 (名) 1.7%	20 (名) 5.8%
平成27年度	国内外の災害復興支援（東日本大震災復興支援活動、熊本地震復興支援活動等）	各都道府県における事後活動組織の活動（定例会、独自の活動等）	街おこし等の地域密着型の社会活動	その他	上のどれにも参加していない。	合計	
航空機事業	3 (名) 3.6%	7 (名) 8.4%	3 (名) 3.6%	3 (名) 3.6%	8 (名) 9.6%	83 (名) 100%	
船事業	13 (名) 6.2%	24 (名) 11.5%	8 (名) 3.8%	3 (名) 1.4%	12 (名) 5.7%	209 (名) 100%	
コア事業	3 (名) 8.6%	3 (名) 8.6%	4 (名) 11.4%	1 (名) 2.9%	0 (名) 0.0%	35 (名) 100%	
合計	19 (名) 5.8%	34 (名) 10.4%	15 (名) 4.6%	7 (名) 2.1%	20 (名) 6.1%	327 (名) 100%	
令和元年度	国内外の災害復興支援（東日本大震災復興支援活動、熊本地震復興支援活動等）	各都道府県における事後活動組織の活動（定例会、独自の活動等）	街おこし等の地域密着型の社会活動	その他	上のどれにも参加していない。	合計	
航空機事業	1 (名) 1.0%	11 (名) 10.9%	3 (名) 3.0%	0 (名) 0.0%	12 (名) 11.9%	101 (名) 100%	
船事業	6 (名) 3.2%	18 (名) 9.5%	8 (名) 4.2%	3 (名) 1.6%	31 (名) 16.4%	189 (名) 100%	
コア事業	1 (名) 1.9%	10 (名) 18.5%	5 (名) 9.3%	3 (名) 5.6%	2 (名) 3.7%	54 (名) 100%	
合計	8 (名) 2.3%	39 (名) 11.3%	16 (名) 4.7%	6 (名) 1.7%	45 (名) 13.1%	344 (名) 100%	

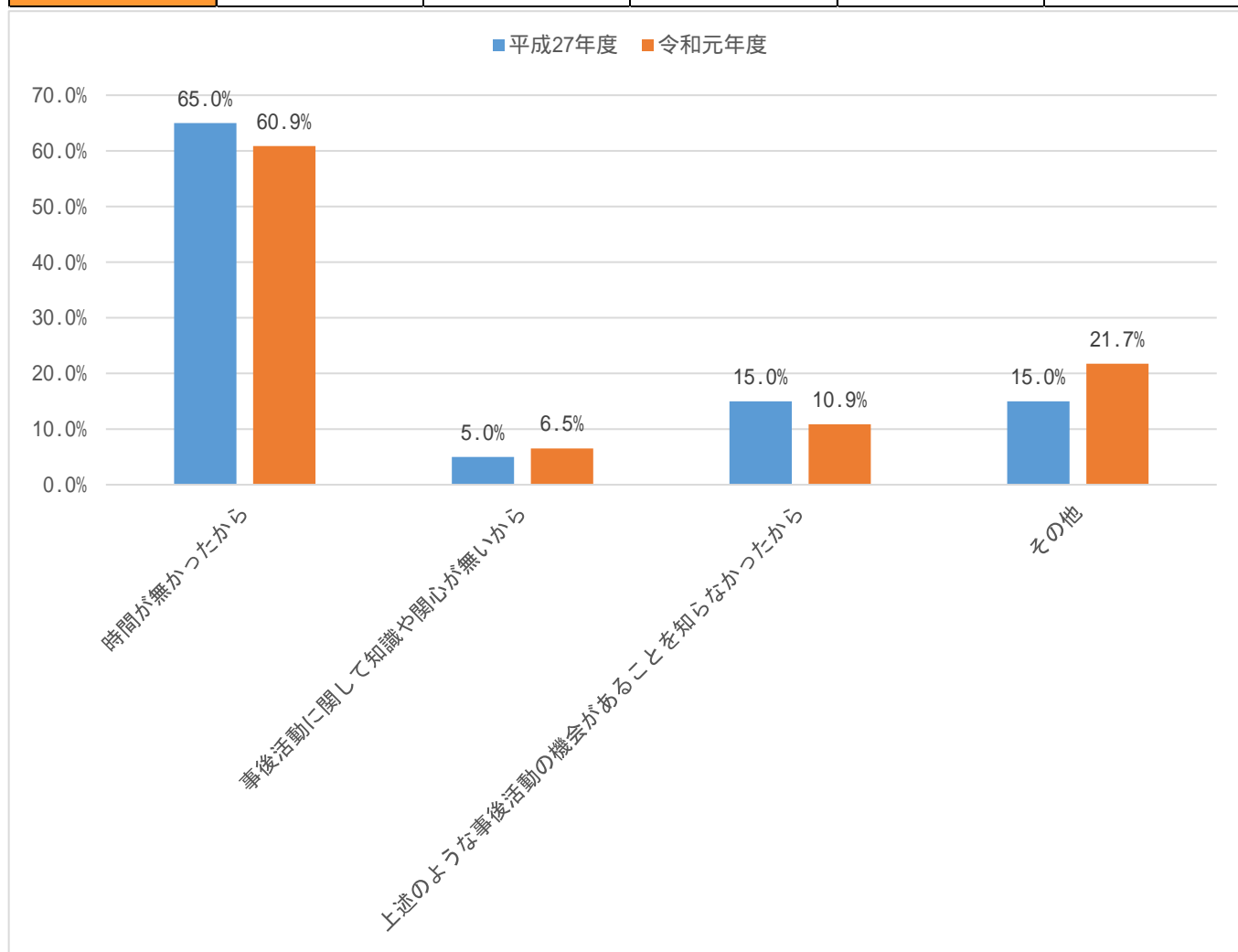


問 6-1. 問 6 で「その他」を選んだ方は、具体的に御記入ください。

- ・ オンラインでの勉強会の実施
- ・ 大学内での留学生サポート等の活動
- ・ 日本訪問者への通訳
- ・ 令和 2 年度に内閣府が実施したオンライン交流事業「グローバルユースサミット」へモデレーターとして参加
- ・ 日本参加青年と学びを本にまとめる作業を実施
- ・ 中国派遣団同窓会における活動
- ・ IYEO 運営委員としての活動 (福岡 IYEO との共同イベント、広島 IYEO とのブロック大会運営など)
- ・ 石川で高校の中間支援に近い動きをしている人達の任意団体を設立。法人がユース向けの場をつくる動きにアドバイザーが入っている。報告会やテレビ放送などだけでなく、金沢市の総合戦略の委員会の場や、他自治体職員などに事例を伝えている。

問 6-2.問 6 で「上のどれにも参加していない」を選んだ方は、参加しなかったのはなぜですか。

平成27年度	時間が無かったから	事後活動に関して知識や関心が無いから	上述のような事後活動の機会があることを知らなかったから	その他	合計
航空機事業	7 (名) 87.5%	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	1 (名) 12.5%	8 (名) 100%
船事業	6 (名) 50.0%	1 (名) 8.3%	3 (名) 25.0%	2 (名) 16.7%	12 (名) 100%
コア事業	0 (名) ---	0 (名) ---	0 (名) ---	0 (名) ---	0 (名) 0%
合計	13 (名) 65.0%	1 (名) 5.0%	3 (名) 15.0%	3 (名) 15.0%	20 (名) 100%
令和元年度	時間が無かったから	事後活動に関して知識や関心が無いから	上述のような事後活動の機会があることを知らなかったから	その他	合計
航空機事業	9 (名) 75.0%	0 (名) 0.0%	1 (名) 8.3%	2 (名) 16.7%	12 (名) 100%
船事業	19 (名) 59.4%	3 (名) 9.4%	4 (名) 12.5%	6 (名) 18.8%	32 (名) 100%
コア事業	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	2 (名) 100.0%	2 (名) 100%
合計	28 (名) 60.9%	3 (名) 6.5%	5 (名) 10.9%	10 (名) 21.7%	46 (名) 100%

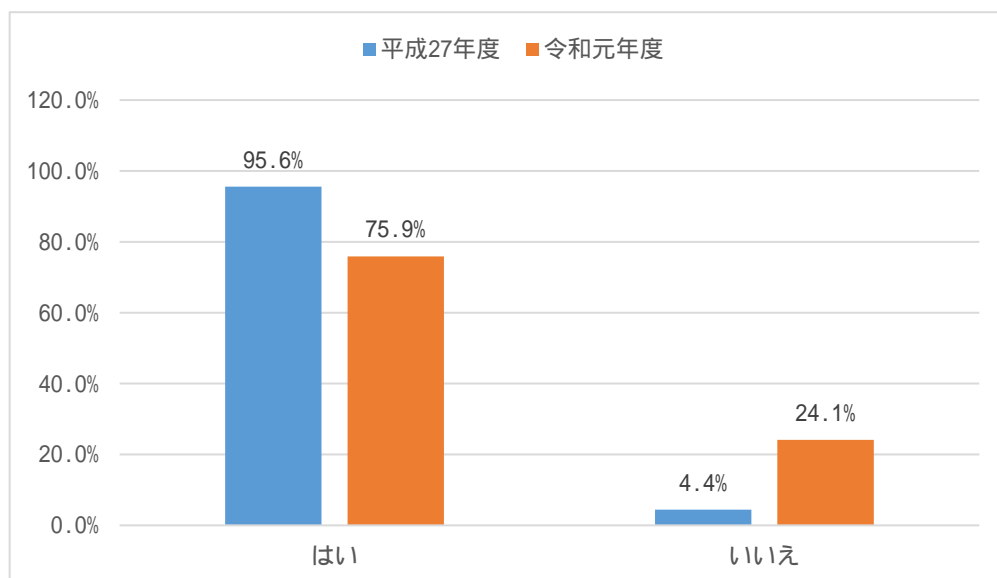


問 6-3.問 6-2 で「その他」を選んだ方は、具体的に御記入ください。

- ・ 住んでいる場所が事後活動場所から遠かったため。
- ・ 所属している東京から離れていることが多かったため。各地域でどのような活動に参加できるか把握していなかったため。
- ・ 忙しい中時間を割いてまで参加するメリットを特に感じられなかったから。
- ・ コロナウイルス感染症の影響により、多くの活動が中止又は行うことが困難だったから。
- ・ コロナ禍の中で参加する機会自体が得られなかったり、報告会を企画したが中止せざる得なかった。
- ・ コロナ禍で通常開催になり得ないことから参加意欲がわかなかった(限定された事後活動の内容に魅力を感じなかった)。

問 7.内閣府の青年国際交流事業では、参加した青年を中心に組織された同窓会組織である日本青年国際交流機構 (IYEO) が大きな事後活動組織としてあります。あなたは、IYEO に会員登録(入会)しましたか。

	はい	いいえ	合計
平成27年度合計	129 (名)	6 (名)	135 (名)
	95.6%	4.4%	100%
令和元年度合計	151 (名)	48 (名)	199 (名)
	75.9%	24.1%	100%



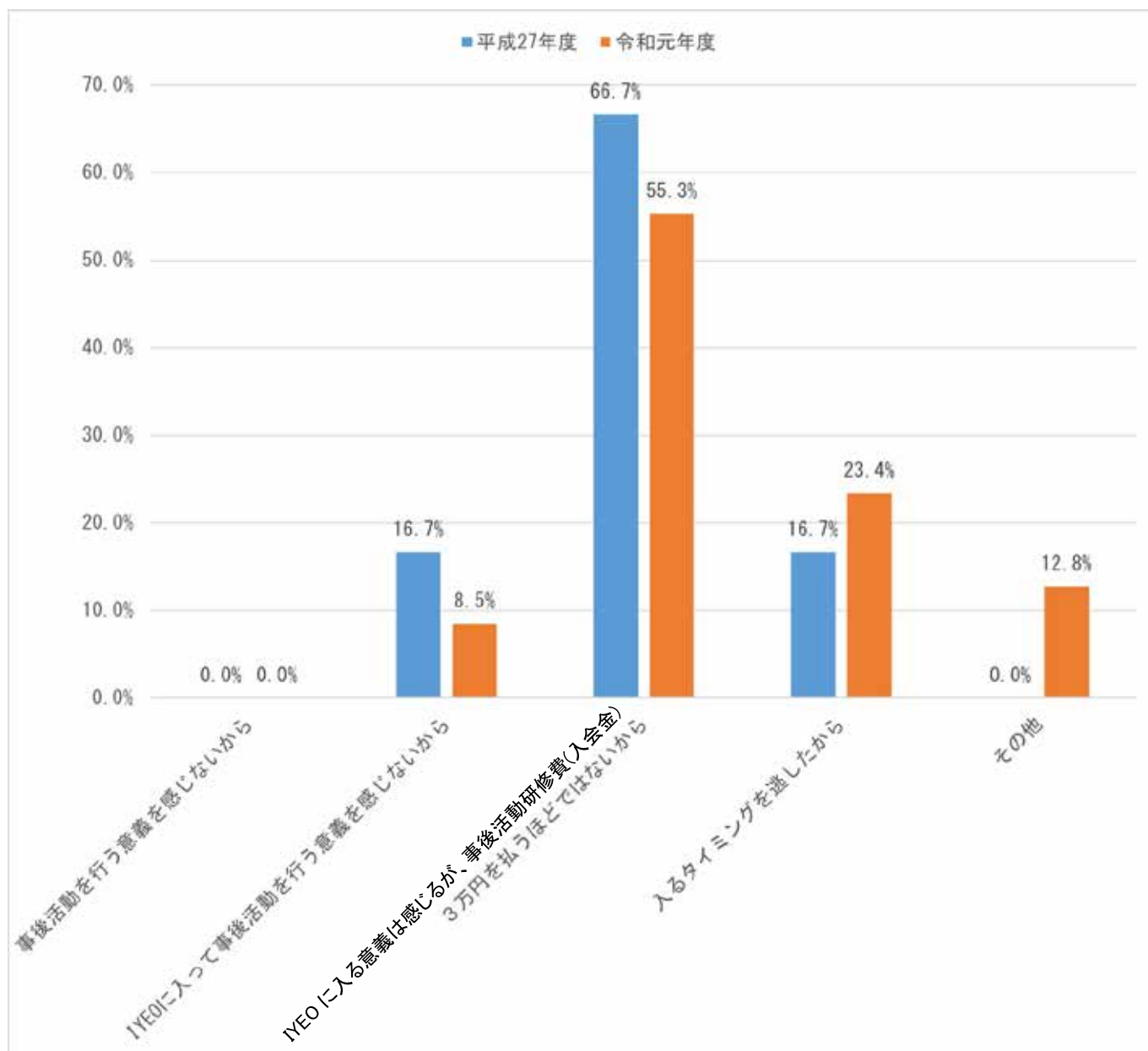
問 7-1.「はい」を選んだ方は、今後 IYEO がどのような組織であると活動を継続しやすいと思いますか。

- ・ 学生のうちは参加費のかかるものに複数回参加することは難しいので、無料で何かお手伝いできる機会がたくさんあれば参加しやすいと思う。
- ・ もっと都道府県ごとにどんな活動を行っているのかわかりやすく広報してほしいし、メールアドレスだけでなく連絡先が分かるようにしてほしい。公式 LINE などを作って広報を行うのがいいと思う。
- ・ 自分の仕事や学業と両立しやすい組織。仕事や学業で IYEO を離れる期間があっても、気軽に帰ってきやすい雰囲気がある温かい組織。
- ・ しばらく参加していなかった人も気軽に帰って来れるかつ、縦横の関係を広げられる場。
- ・ 若者が積極的にチャレンジできる組織。
- ・ 年齢や時代の枠にとらわれず、活動における自由度が高い組織。また、活動内容の恒常化を感じた

- め、新しいことにも焦点を当てて挑戦していける場であってほしいと思う。
- ・ 50年近く続いた長い事業なので、日本参加青年のOB・OGが事業をふまえて、現在どんな仕事、活動をされているか共有してほしい。そんな気軽なプラットフォームや交流の機会提供。
 - ・ 幅広く人をつなげるようなイベントや試みが多くあり、初めての人も巻き込んでいけるような環境であれば活動しやすい。
 - ・ 透明性が高く、垣根が低い。比較的若い人が運営していること。
 - ・ 完全なボランティア団体ではなくなる。幹部メンバーとして全国大会の運営フォローを経験したが、正直非常に負担が大きく、仕事と両立できないと感じた。サポートメンバーは多数いるがボランティアのためどうしても中心メンバーに仕事が集中する傾向があり、休日・平日関係なくその仕事をしている姿を見るとボランティアでできる業務の枠を超えている気がする。また若い方の参加が少なく、全国大会に参加しても毎回同じメンバーが参加されていて、最初に参加した際は少し閉鎖性を感じた。
 - ・ 委員のような継続的な関わり方だけでなく、イベント毎にボランティアや参加者としてスポットで関わる方法もあると参加しやすいと思う。また、金銭的な補助があると、遠方での活動や長期間の活動にも参加しやすくなると思う。
 - ・ 同じ地域や同じ事業のOB・OGと繋がりやすいと、キャリアを考える上でも、仕事をする上でも、活動をする上でも良いと思います。
 - ・ 海外青年との交流の機会。
 - ・ これから参加する、したいと思っている人たちをもっと積極的に巻き込んでいける組織。
 - ・ 既存のやり方に捉われずに、変化の激しい時代だからこそオープンイノベーションで色々な組織や団体とコラボをしていく事や、新しい考えやチャレンジを後押しして新しい風を入れるような事をするのが今後若い層を取り入れていく鍵だと思う。IYEOの中での役職や立場などを若者はあまり求めない一方で新しい時代の最前線に居るからこそ、挑戦の機会を求めてはいると思う。上手くそういったエネルギーを今後のIYEOの活動に反映していくことが出来れば自分も含めてカジュアルにも、ディープにも今後の活動にも更に参加しやすくなるかと思う。
 - ・ 敷居が低い組織、参加することで自分のキャリアにもメリットがある活動を行える組織。
 - ・ 活動内容があまり魅力に思えないことが多い。参加者が望んでいる活動の見直しが必要に感じた。
 - ・ 入会費を安くしてほしい。学生には負担が大きい額だと思う。
 - ・ 全国的な組織にも関わらず知名度が低く、既参加青年団体以外の地域に根づいた参加者を取り込みづらい現状があると思う。そのため団体としての知名度が上がれば、外部との協力を得て講演会やボランティア活動をよりスムーズに開催できると思う。
 - ・ 学校教員として勤務する中で職場の理解が得にくいため、休暇等を取得して日中の活動に中々参加しづらい。社会人が活動や各種説明会等に委員として参加する場合、招請状や参加証明書のような書類を発行していただくと、活動を継続しやすいと思う。
 - ・ 県外でつながる活動を今後より増やして欲しい。また、公式の活動でなくても非公式の活動で人脈を広げる場や、参加者のあるスキルを向上させるような取り組み等があると嬉しい。
 - ・ 今はまだ現状のままで良いと思う。
 - ・ 現在のように情報を常にメールで報告される環境である組織であることや、都道府県によって活動の活発さに差がないことが必要だと思う。
 - ・ オンラインでのイベントをますます増やしてほしい。(地方在住の為)
 - ・ 1つのプロジェクトの時間が短いなど、参加しやすい場があれば、活動を継続しやすいのではないかとと思う。
 - ・ 近隣都道府県と連携しあえる組織であると活動の幅も広がり、地域格差もなく、継続して活動ができると思う。
 - ・ 北海道IYEOのみ所属していたが、各国際交流イベントやボランティアはやりがいを感じた。所属していても活動に参加しない人が多いと考えられるので、勧誘に力を入れるのは別に、各都道府県で所属メンバーが参加しやすい環境を作ることが必要。
 - ・ IYEOは『やる気がある人が参加』している感じがして参加へのハードルが高い。また、どんな組織でありたいのかも分からない。
 - ・ 仕事や生活スタイル、ライフステージに合わせて無理なく参加できる組織だと活動を続けやすいと思う。活動の中心メンバーとしては動けないけど、当日スタッフとしてなら参加できるなど、ゆるく繋がりを保てる組織だといえると思う。

問 7-2. 「いいえ」を選んだ方は、なぜですか。

	事後活動を行う意義を感じないから	IYEOに入って事後活動を行う意義を感じないから	IYEOに入る意義は感じるが、事後活動研修費（入会金）3万円を払うほどではないから	入るタイミングを逃したから	その他	合計
平成27年度合計	0 (名) 0.0%	1 (名) 16.7%	4 (名) 66.7%	1 (名) 16.7%	0 (名) 0.0%	6 (名) 100%
令和元年度合計	0 (名) 0.0%	4 (名) 8.5%	26 (名) 55.3%	11 (名) 23.4%	6 (名) 12.8%	47 (名) 100%



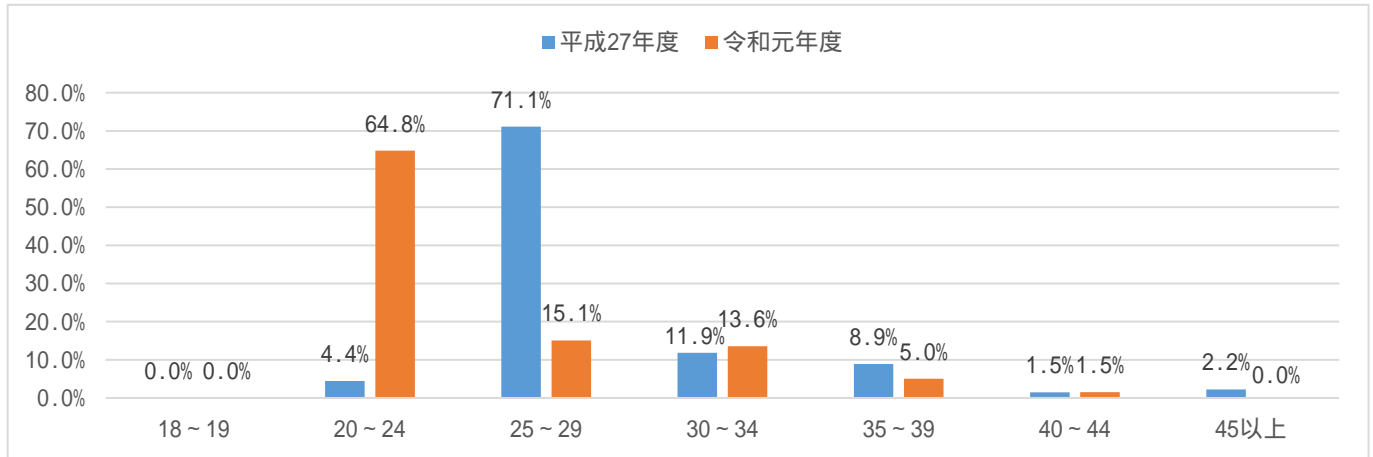
問 7-3. 問 7-2 で「その他」を選んだ方は、具体的に御記入ください。

- ・ IYEO の具体的活動内容や今後私自身の活動拠点が変わるためどうすべきか分からなかった。
- ・ 就職を控えていたため新生活を迎える上で IYEO の活動にあてる時間がないと思ったから。
- ・ お金がなかったから。

<あなた御自身について伺います。>

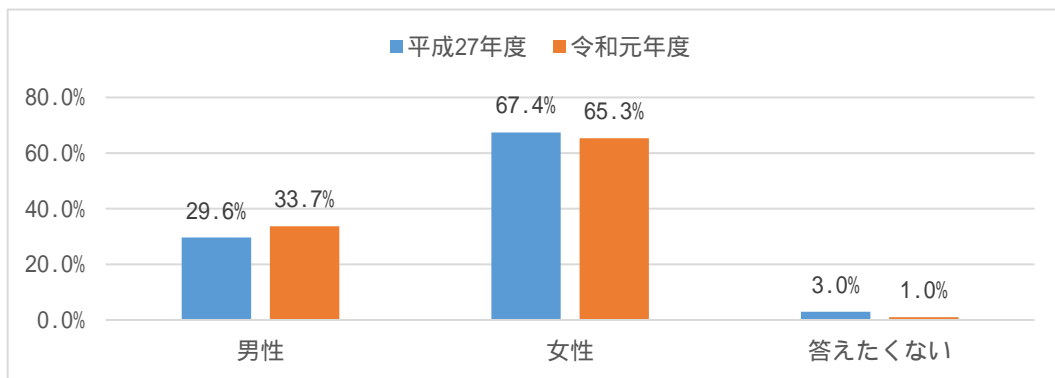
問 8. あなたの現在の年齢を教えてください。

	18～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45以上	合計
平成27年度合計	0 (名)	6 (名)	96 (名)	16 (名)	12 (名)	2 (名)	3 (名)	135 (名)
	0.0%	4.4%	71.1%	11.9%	8.9%	1.5%	2.2%	100%
令和元年度合計	0 (名)	129 (名)	30 (名)	27 (名)	10 (名)	3 (名)	0 (名)	199 (名)
	0.0%	64.8%	15.1%	13.6%	5.0%	1.5%	0.0%	100%



問 9. あなたの性別をお答えください。

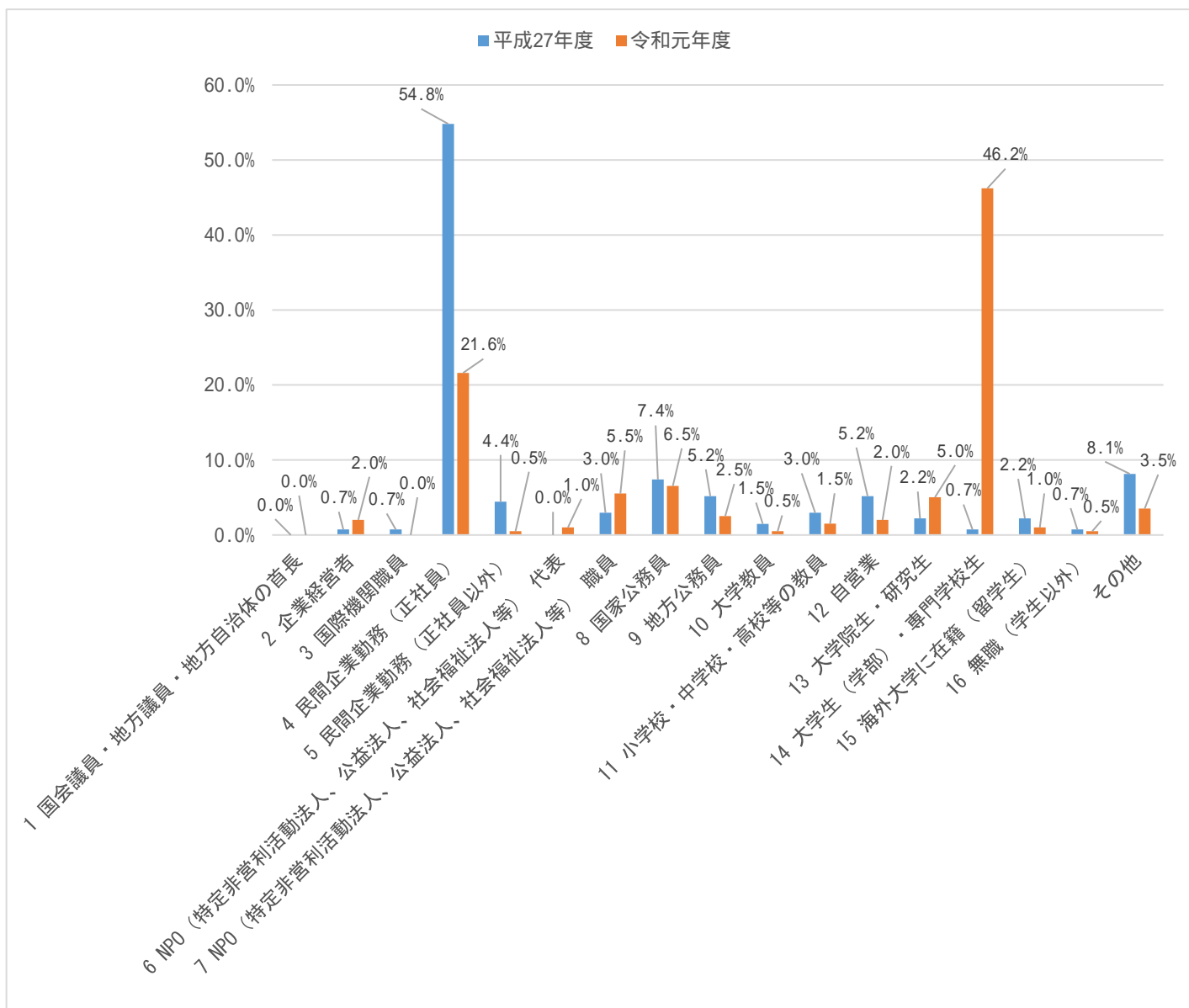
	男性	女性	答えたくない	合計
平成27年度合計	40 (名)	91 (名)	4 (名)	135 (名)
	29.6%	67.4%	3.0%	100%
令和元年度合計	67 (名)	130 (名)	2 (名)	199 (名)
	33.7%	65.3%	1.0%	100%



問 10. あなたの現在の就業状況をお答えください。

	1 国会議員・地方議員・地方自治体の首長	2 企業経営者	3 国際機関職員	4 民間企業勤務(正社員)	5 民間企業勤務(正社員以外)	6 NPO(特定非営利活動法人、公益法人、社会福祉法人等)代表	7 NPO(特定非営利活動法人、公益法人、社会福祉法人等)職員	8 国家公務員	9 地方公務員
平成27年度合計	0(名) 0.0%	1(名) 0.7%	1(名) 0.7%	74(名) 54.8%	6(名) 4.4%	0(名) 0.0%	4(名) 3.0%	10(名) 7.4%	7(名) 5.2%
令和元年度合計	0(名) 0.0%	4(名) 2.0%	0(名) 0.0%	43(名) 21.6%	1(名) 0.5%	2(名) 1.0%	11(名) 5.5%	13(名) 6.5%	5(名) 2.5%

	10 大学教員	11 小学校・中学校・高校等の教員	12 自営業	13 大学院生・研究生	14 大学生(学部)・専門学校生	15 海外大学に在籍(留学生)	16 無職(学生以外)	その他	合計
平成27年度合計	2(名) 1.5%	4(名) 3.0%	7(名) 5.2%	3(名) 2.2%	1(名) 0.7%	3(名) 2.2%	1(名) 0.7%	11(名) 8.1%	135(名) 100%
令和元年度合計	1(名) 0.5%	3(名) 1.5%	4(名) 2.0%	10(名) 5.0%	92(名) 46.2%	2(名) 1.0%	1(名) 0.5%	7(名) 3.5%	199(名) 100%

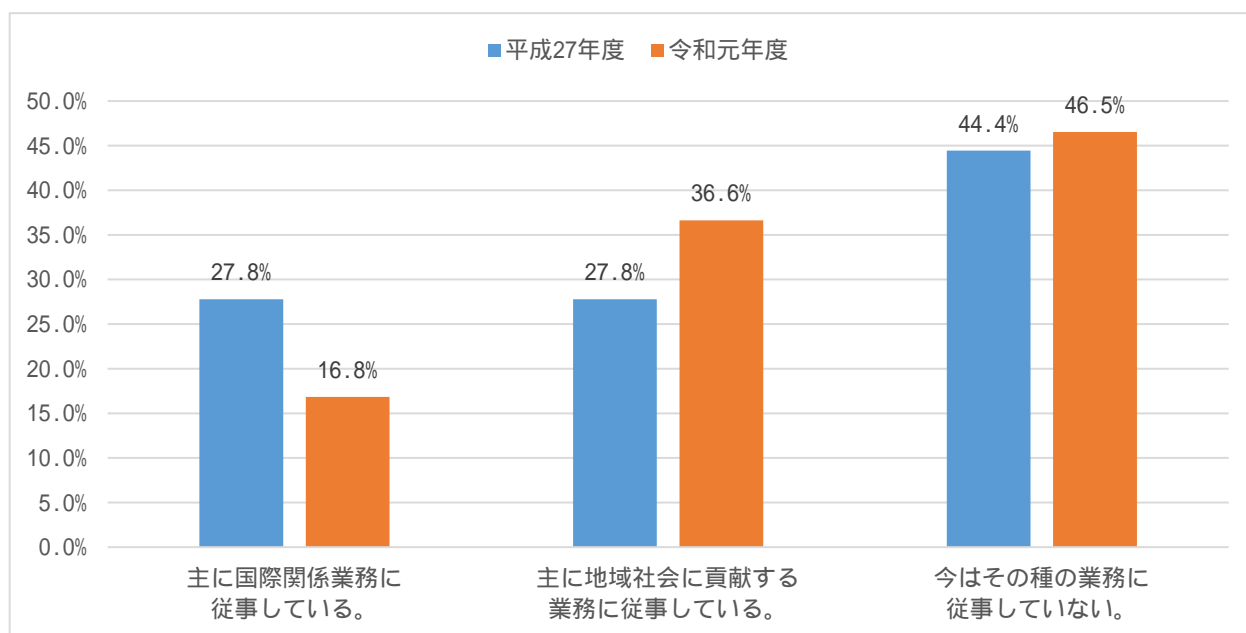


問 10-1. 「その他」を選んだ方は、具体的に御記入ください。

- ・ 医師
- ・ 外資系コンサルタント
- ・ 民間保育園の保育士
- ・ 作業療法士
- ・ 在外公館職員
- ・ 団体職員（公益財団法人、独立行政法人、政治団体等）

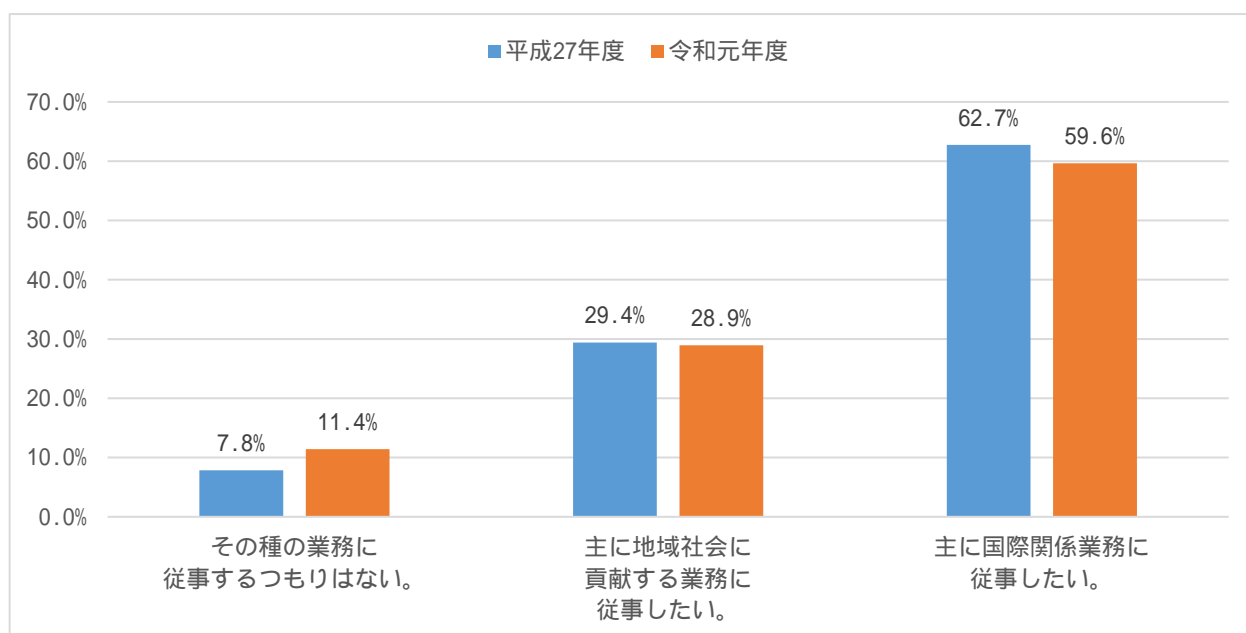
問 10-2. 【問 10 で 1～13 又はその他を選んだ方のみ回答】あなたはいわゆる国際関係業務や地域社会に貢献する業務に従事していますか。いずれか一つ選択してください。

平成27年度	主に国際関係業務に従事している。	主に地域社会に貢献する業務に従事している。	今はその種の業務に従事していない。	合計
航空機事業	14 (名) 42.4%	6 (名) 18.2%	13 (名) 39.4%	33 (名) 100%
船事業	16 (名) 23.9%	17 (名) 25.4%	34 (名) 50.7%	67 (名) 100%
コア事業	0 (名) 0.0%	7 (名) 87.5%	1 (名) 12.5%	8 (名) 100%
合計	30 (名) 27.8%	30 (名) 27.8%	48 (名) 44.4%	108 (名) 100%
令和元年度	主に国際関係業務に従事している。	主に地域社会に貢献する業務に従事している。	今はその種の業務に従事していない。	合計
航空機事業	3 (名) 12.5%	8 (名) 33.3%	13 (名) 54.2%	24 (名) 100%
船事業	12 (名) 20.3%	13 (名) 22.0%	34 (名) 57.6%	59 (名) 100%
コア事業	2 (名) 11.1%	16 (名) 88.9%	0 (名) 0.0%	18 (名) 100%
合計	17 (名) 16.8%	37 (名) 36.6%	47 (名) 46.5%	101 (名) 100%



問 10-3.【問 10 で 14～16 を選んだ方のみ回答】あなたは今後いわゆる国際関係業務や地域社会に関する業務に従事したいですか。いずれか一つ選択してください。

平成27年度	その種の業務に従事するつもりはない。	主に地域社会に貢献する業務に従事したい。	主に国際関係業務に従事したい。	合計
航空機事業	2 (名)	4 (名)	9 (名)	15 (名)
	13.3%	26.7%	60.0%	100%
船事業	2 (名)	8 (名)	22 (名)	32 (名)
	6.3%	25.0%	68.8%	100%
コア事業	0 (名)	3 (名)	1 (名)	4 (名)
	0.0%	75.0%	25.0%	100%
合計	4 (名)	15 (名)	32 (名)	51 (名)
	7.8%	29.4%	62.7%	100%
令和元年度	その種の業務に従事するつもりはない。	主に地域社会に貢献する業務に従事したい。	主に国際関係業務に従事したい。	合計
航空機事業	8 (名)	13 (名)	22 (名)	43 (名)
	18.6%	30.2%	51.2%	100%
船事業	5 (名)	17 (名)	46 (名)	68 (名)
	7.4%	25.0%	67.6%	100%
コア事業	0 (名)	3 (名)	0 (名)	3 (名)
	0.0%	100.0%	0.0%	100%
合計	13 (名)	33 (名)	68 (名)	114 (名)
	11.4%	28.9%	59.6%	100%



問 11.その他、御意見等ありましたら御記入ください。

- ・ 内閣府の国際交流事業は私の人生を左右したといっても過言ではないほど、たくさんのことを学ばせていただきました。数値的に見える成果というのは測ることが難しいかもしれませんが、草の根として、また長期的に見てとても意義深い事業であると考えています。
- ・ 世界青年の船は、国際的視野を身につけるとても良い機会になりました。また、国内外に素晴らしい人脈ができたと感じております。現在も海外青年と密に連絡をとっており、現地の情勢を確認することもできています。今はコロナ禍で難しいですが、タイミングをみて更に国際的な職に転職したいと考えております。世界青年の船に参加することができ、本当に嬉しく、心から感謝しております。ありがとうございます。今後もこの経験を多くの人に伝えていきたいと思っております。
- ・ 私は平成 27 年度の事業に参加しました。そこで様々な経験をさせてもらい、現在の職業に就こうと考え、今に至ります。多様な参加青年がいると思いますが、今後も、私のように何か道標を見つけるために参加するといった青年に対しても、ぜひ船に乗る機会を与えて頂きたいと切に願います。
- ・ コロナの影響で、オンラインの活動が増えていますが、感染が収束した際には、対面の活動の再開による国際交流・国際協力や地域課題解決に取り組みたいと思っております。
- ・ キャリア形成に関する質問が多かった印象ですが、キャリアに絞ってしまうとどうしても該当者は少なくなると思います。直接キャリアには影響していなくても事業を通じて得た人間関係からいつも刺激を受けており間接的に自分の今の仕事での頑張りにもつながっていると思うので、こうした部分も汲んでいただけるとありがたいです。
- ・ コロナウイルスの影響で、対面での事業実施が困難な状況にあると思いますが、状況が落ち着き次第、また対面での交流ができる事業を企画頂きたいです。世界青年の船は、未来の日本の若者たちにぜひ参加してほしいと思っています。
- ・ 国際交流事業や発展途上国等で社会的発展をサポートしたいと強く思う。
- ・ 応募者の増加を目的に、更に開かれた事業として敷居を下げるためにも、東南アジア青年の船の参加費の免除を、金銭的な課題がある人を対象に検討してみてもどうでしょうか。
- ・ 国や都道府県の方からも「どんな次世代を育てていきたいのか」を発信して、僕たち側からも「こういう活動をしたい」などの情報を上げていくのが良いのかなと思っています。この循環があればと思うところです。
- ・ NPO 法人 東京少年少女キャンプ村に子供の頃から属しており、大学生からは地域の責任者としてやっていました。それを何か結びつけられるかは、わかりませんが、子供や大学の後輩にこの事業について勧めると興味を持つ人は多かったように感じます。自身にとっても、とても良い事業と感じておりますので、ぜひ存続してほしいと思っております。
- ・ コロナウイルスの影響で 2020 年は全国大会など参加できなかったもので、3 年間は 1 回無料で参加できる資格を延長してほしいです。
- ・ 内閣府の事後イベントは毎回集まる人や表に出る人が同じだと感じ、イベントがあっても壁を感じてしまい参加しづらい。
- ・ 就職活動において、東南アジア青年の船事業に参加したことをきっかけに繋がった方々に大変お世話になりました。就職先にも、既参加青年や内閣府の担当者として乗船された方もいらっしゃることで、今後の IYEO での活動も通して地域社会に貢献できる活動を起こしていきたいと考えています。
- ・ 派遣での経験だけでなく、事前研修の最中の各種資料やプログラム運営のノウハウなど、現在の仕事に直接役立っている。今後コロナ禍において、直接派遣ができなくても、何らかの形で事業を継続して欲しいと願います。
- ・ 今後も「東南アジア青年の船」事業をはじめ、自分たちが経験したように、青年たちが国際交流活動の機会を得られることを強く願っております。

第 4 付録

資料 1 調査票その他の調査関係資料

a. 依頼文書（電子メールによる）

平成 27 年度及び令和元年度内閣府青年国際交流事業
既参加青年 各位

(一財)青少年国際交流推進センター
事務局長

平素より大変お世話になっております。

今般、内閣府からの委託に基づき、内閣府青年国際交流事業に参加されてから 1 年後と 5 年後の青年を対象に、フォローアップ調査を実施することとなりました。

本調査の集計は、(一財)青少年国際交流推進センターが取り扱います。

以下の内閣府からのメッセージに記載の通り、厳しい財政状況で本事業を継続するために重要な調査です。スマートフォンからの回答もでき、所要時間は 15 分程度もかからない調査ですので、こちらの URL から御回答いただきますようお願いいたします。

オンラインフォーマット

<https://form.cao.go.jp/youth/opinion-0234.html>

また、御自身の回答はもちろん、同期の皆さんにも声をかけて、積極的に御協力いただけると幸いです。

本件についての問い合わせ連絡先：

(一財)青少年国際交流推進センター
フォローアップ調査担当

Email : questionnaire@centerye.org

TEL : 03-3249-0767

=====以下、内閣府からの依頼=====

令和 2 年度内閣府青年国際交流事業既参加青年フォローアップ調査について

平成 27 年度及び令和元年度に内閣府青年国際交流事業に参加くださった皆様

日頃より内閣府青年国際交流事業に御理解、御協力いただき、誠にありがとうございます。
内閣府青年国際交流担当室の各事業の総括を担当しています。

今年 9 月に実施した内閣府青年国際交流事業既参加日本青年を対象としたアンケート調査におきましては、お忙しい中御協力いただき誠にありがとうございました。

アンケート調査の依頼の際にもお伝えしておりましたが、厳しい財政状況の中、本事業を続けていくためには、実際に参加された皆様の声が非常に重要になってまいります。

今回お願いするフォローアップ調査は、本事業の既参加青年への影響や事後活動等について、事業参

加後1年目、5年目の皆様を対象とした調査であり、毎年実施しているものです。本調査を通じ、既参加青年の皆様の事業参加による意識・行動の変化と現時点での事後活動の状況等についての情報を収集することにより、事業の効果を的確に把握し、今後の予算に関する検討及び事業の更なる改善、そして事後活動の一層の推進に資することとしています。

締切は令和3年1月25日(月)とさせていただきます。本調査への高い回答率が事業の効果を示すエビデンスになることから、内閣府としては100%に近い回答率を目指しております。よって、場合によっては、内閣府又は委託業者の(一財)青少年国際交流推進センターから御回答のリマインドや督促等を行わせていただきますので、あらかじめ御理解いただくとともに、早めの御回答をいただければと存じます。

< 回答を頂くに当たって >

集計作業は、一般財団法人青少年国際交流推進センターで行います。

アンケートへの回答は、令和3年1月25日(月)までにお願いいたします。

なお、御本人確認のために氏名等をお伺いしております。

返信していただいたアンケート内容は、集計結果が公表されることはありますが、氏名入りの回答が外部に公表されることはありません。

内閣府青年国際交流担当室参事官補佐(国際企画担当)

b. 調査票 - オンラインフォーマット 鏡文・回答フォーム

[内閣府ホーム](#) > [内閣府共通意見等登録システム](#)

令和2年度内閣府青年国際交流事業既参加青年フォローアップ調査

内閣府青年国際交流担当室

回答者へのメッセージ

こちらは、内閣府青年国際交流事業のフォローアップ調査です。調査対象は、平成27年度及び令和元年度の事業参加者の方です。質問は全部で11問あります。コメント欄の記載によりますが、5分～15分程度で記入できる内容です。今後の事業の発展のために御協力いただくと幸いです。

[注意事項]

氏名・メールアドレスについては、いただいた御意見・御質問の主旨が不明確な場合などに問合せをさせていただくために記入いただくものです。記入いただいた個人情報は他の用途には使用いたしません。

必要事項を記入後、[次へ]ボタンをクリックしてください。

- 1 文字化けを防ぐため、半角カタカナ、丸数字、特殊文字は使用しないでください。使用された場合、一部特殊文字は規則に従い、自動的に置き換えて受信を行います。あらかじめ御了承ください。（詳細は「[置き換え規則について](#)」を御覧ください。）

1. 内容入力

2. 確認

3. 完了

メールアドレス (半角) ※必須	<input type="text"/>	残り文字数50
回答者氏名 ※必須	<input type="text"/>	残り文字数50
問1 あなたが内閣府青年国際交流事業に参加したのは何年度ですか。 ※必須	<input type="radio"/> 平成27年度 <input type="radio"/> 令和元年度	
問2 あなたが参加した事業名は何ですか。 ※必須	<input type="radio"/> 国際青年育成交流事業 (平成27年度) <input type="radio"/> 国際社会青年育成事業 (令和元年度) <input type="radio"/> 日本・中国青年親善交流事業 <input type="radio"/> 日本・韓国青年親善交流事業 <input type="radio"/> 「東南アジア青年の船」事業 <input type="radio"/> 次世代グローバルリーダー事業 (平成27年度) <input type="radio"/> 「世界青年の船」事業 (令和元年度) <input type="radio"/> 青年社会活動コアリーダー育成プログラム (平成27年度) <input type="radio"/> 地域課題対応人材育成事業「地域コアリーダープログラム」 (令和元年度)	

<内閣府青年国際交流事業への参加による影響について伺います。>

問3 5年前又は1年前、内閣府の青年国際交流事業に参加したことで、その後の5年間又は1年間であなたにどのような影響がありましたか。

以下のaからfに挙げる項目について、該当するものをそれぞれ一つお選びください。

a.事業に参加したことで、国際社会に貢献する仕事や活動に関心を持ち、キャリア形成に役立っている。 ※必須	<input type="radio"/> そう思う <input type="radio"/> ややそう思う <input type="radio"/> どちらでもない <input type="radio"/> あまりそう思わない <input type="radio"/> そう思わない
b.事業に参加したことで、地域社会に貢献する仕事や活動に関心を持ち、キャリア形成に役立っている。 ※必須	<input type="radio"/> そう思う <input type="radio"/> ややそう思う <input type="radio"/> どちらでもない <input type="radio"/> あまりそう思わない <input type="radio"/> そう思わない
c.事業で得たリーダーシップやマネジメント能力を発揮する具体的な機会を得た。 ※必須	<input type="radio"/> そう思う <input type="radio"/> ややそう思う <input type="radio"/> どちらでもない <input type="radio"/> あまりそう思わない <input type="radio"/> そう思わない
d.事業参加経験をきっかけに社会貢献（ボランティア活動等）に取り組むようになった。 ※必須	<input type="radio"/> そう思う <input type="radio"/> ややそう思う <input type="radio"/> どちらでもない <input type="radio"/> あまりそう思わない <input type="radio"/> そう思わない
e.事業で得た国際的人的ネットワークが自分のキャリア形成を行う際に役立っている。 ※必須	<input type="radio"/> そう思う <input type="radio"/> ややそう思う <input type="radio"/> どちらでもない <input type="radio"/> あまりそう思わない <input type="radio"/> そう思わない
f.事業で得た国内的人的ネットワークが自分のキャリア形成を行う際に役立っている。 ※必須	<input type="radio"/> そう思う <input type="radio"/> ややそう思う <input type="radio"/> どちらでもない <input type="radio"/> あまりそう思わない <input type="radio"/> そう思わない
問4 あなたは、同じ事業に参加した外国人の参加青年と現時点でも交流が続いていますか。 ※必須	<input type="radio"/> 外国人の参加青年と交流が続いている。 <input type="radio"/> 外国人の参加青年と交流は続いていない。

 入力内容を
パソコンに保存する

次へ>

※「入力内容をパソコンに保存する」は、スマートフォン端末、タブレット端末ではご利用できません。

[このページの先頭へ](#) 



〒100-8914 東京都千代田区永田町1-6-1
電話番号 03-5253-2111 (大代表)

内閣府法人番号 2000012010019
© Cabinet Office, Government of Japan

令和2年度内閣府青年国際交流事業既参加青年フォローアップ調査

内閣府青年国際交流担当室

回答者へのメッセージ

こちらは、内閣府青年国際交流事業のフォローアップ調査です。調査対象は、平成27年度及び令和元年度の事業参加者の方です。質問は全部で11問あります。コメント欄の記載によりますが、5分～15分程度で記入できる内容です。今後の事業の発展のために御協力いただくと幸いです。

【注意事項】

氏名・メールアドレスについては、いただいた御意見・御質問の主旨が不明確な場合などに問合せをさせていただくために記入いただくものです。記入いただいた個人情報は他の用途には使用いたしません。

必要事項を記入後、[次へ]ボタンをクリックしてください。

[修正]ボタンをクリックした場合、本ページで記入頂いた内容が消える場合があります。

- 文字化けを防ぐため、半角カタカナ、丸数字、特殊文字は使用しないでください。使用された場合、一部特殊文字は規則に従い、自動的に置き換えて受信を行います。あらかじめ御了承ください。（詳細は「置き換え規則について」をご覧ください。）

1. 内容入力

2. 確認

3. 完了

問4-1. 【外国人の参加青年と交流が続いている】と答えた方は、交流の内容について、以下から選択してください。（複数選択可）また、c.dを選んだ方は具体的な内容を記載してください。

- a. ソーシャルメディア等インターネット上のやりとり、手紙、電話を通じた交流が続いている
- b. 事業終了後に外国青年を訪問する、外国青年の訪問を受けるといった交流が続いている
- c. 社会貢献活動を共同で行っている
- d. 仕事の相手として続いている

【問4-1-c. 社会貢献活動を共同で行っている】と回答された方のみ。具体的な内容を記載してください。

残り文字数200

【問4-1-d. 仕事の相手として続いている】と回答された方のみ。具体的な内容を記載してください

残り文字数200

< 修正

入力内容を
パソコンに保存する

次へ >

※「入力内容をパソコンに保存する」は、スマートフォン端末、タブレット端末ではご利用頂けません。

[このページの先頭へ](#)

令和2年度内閣府青年国際交流事業既参加青年フォローアップ調査

内閣府青年国際交流担当室

回答者へのメッセージ

こちらは、内閣府青年国際交流事業のフォローアップ調査です。調査対象は、平成27年度及び令和元年度の事業参加者の方です。質問は全部で11問あります。コメント欄の記載によりますが、5分～15分程度で記入できる内容です。今後の事業の発展のために御協力いただけると幸いです。

[注意事項]

氏名・メールアドレスについては、いただいた御意見・御質問の主旨が不明確な場合などに問合せをさせていただくために記入いただくものです。記入いただいた個人情報は他の用途には使用いたしません。

必要事項を記入後、[次へ]ボタンをクリックしてください。
[修正]ボタンをクリックした場合、本ページで記入頂いた内容が消える場合があります。

- ❶ 文字化けを防ぐため、半角カタカナ、丸数字、特殊文字は使用しないでください。使用された場合、一部特殊文字は規則に従い、自動的に置き換えて受信を行います。あらかじめ御了承ください。(詳細は「[置き換え規則について](#)」をご覧ください。)

1. 内容入力

2. 確認

3. 完了

問5 それでは、外国人ではなく、あなたは、同じ事業に参加した日本人の参加青年と現時点でも交流が続いていますか。

※必須

- 日本人の参加青年と交流が続いている
- 日本人の参加青年と交流は続いていない

< 修正

入力内容を
パソコンに保存する

次へ >

※「入力内容をパソコンに保存する」は、スマートフォン端末、タブレット端末ではご利用頂けません。

[このページの先頭へ](#)

令和2年度内閣府青年国際交流事業既参加青年フォローアップ調査

内閣府青年国際交流担当

回答者へのメッセージ

こちらは、内閣府青年国際交流事業のフォローアップ調査です。調査対象は、平成27年度及び令和元年度の事業参加者の方です。質問は全部で11問あります。コメント欄の記載によりますが、5分～15分程度で記入できる内容です。今後の事業の発展のために御協力いただくと幸いです。

【注意事項】

氏名・メールアドレスについては、いただいた御意見・御質問の主旨が不明確な場合などに問合せをさせていただくために記入いただくものです。記入いただいた個人情報は他の用途には使用いたしません。

必要事項を記入後、[次へ]ボタンをクリックしてください。

[修正]ボタンをクリックした場合、本ページで記入頂いた内容が消える場合があります。

- ① 文字化けを防ぐため、半角カタカナ、丸数字、特殊文字は使用しないでください。
使用された場合、一部特殊文字は規則に従い、自動的に置き換えて受信を行います。
あらかじめ御了承ください。（詳細は「置き換え規則について」をご覧ください。）

1. 内容入力

2. 確認

3. 完了

問5-1.【日本人の参加青年と交流が続いている】と答えた方は、交流の内容について、以下から選択してください。（複数選択可）また、c.dを選んだ方は具体的な内容を記載してください。

- a. ソーシャルメディア等インターネット上のやりとり、手紙、電話を通じた交流が続いている
 b. 事業終了後に日本青年を訪問する、日本青年の訪問を受けるといった交流が続いている
 c. 社会貢献活動を共同で行っている d. 仕事の相手として続いている

【問5-1-c. 社会貢献活動を共同で行っている】と回答された方のみ、具体的な内容を記載してください。

残り文字数200

【問5-1-d. 仕事の相手として続いている】と回答された方のみ、具体的な内容を記載してください。

残り文字数200

< 修正

↓
入力内容を
パソコンに保存する

次へ >

※「入力内容をパソコンに保存する」は、スマートフォン端末、タブレット端末ではご利用頂けません。

[このページの先頭へ](#)

令和2年度内閣府青年国際交流事業既参加青年フォローアップ調査

内閣府青年国際交流担当室

回答者へのメッセージ

こちらは、内閣府青年国際交流事業のフォローアップ調査です。調査対象は、平成27年度及び令和元年度の事業参加者の方です。質問は全部で11問あります。コメント欄の記載によりますが、5分～15分程度で記入できる内容です。今後の事業の発展のために御協力いただけると幸いです。

[注意事項]

氏名・メールアドレスについては、いただいた御意見・御質問の主旨が不明確な場合などに問合せをさせていただくために記入いただくものです。記入いただいた個人情報は他の用途には使用いたしません。

必要事項を記入後、[次へ]ボタンをクリックしてください。
[修正]ボタンをクリックした場合、本ページで記入頂いた内容が消える場合があります。

- 文字化けを防ぐため、半角カタカナ、丸数字、特殊文字は使用しないでください。使用された場合、一部特殊文字は規則に従い、自動的に置き換えて受信を行います。あらかじめ御了承ください。（詳細は「置き換え規則について」をご覧ください。）

1. 内容入力

2. 確認

3. 完了

<「事後活動」について伺います。>

内閣府の青年国際交流事業において、事業実施中の活動ではなく、事業参加後、事業で得た学びを広く社会に還元することを目的にした活動を「事後活動」と呼んでいます。

問 6 5年前又は1年前に事業に参加した後、その後の5年間又は1年間に以下の事後活動に参加しましたか。（複数選択可）

※必須

- 事後活動組織の国際大会（SIGA, SWY Global Assembly, 日韓交流連絡会議等）
- 事後活動組織の国内大会（全国大会、ブロック大会等）
- 内閣府青年国際交流事業の実施への協力（例：広報の実施、ホームステイの受入れ、実行委員会への参加等）
- 事業説明／報告会等で内閣府青年国際交流事業参加経験を他者に伝える活動（内閣府職員が出席する説明・報告会への参加）
- 事業説明／報告会等で内閣府青年国際交流参加経験を他者に伝える活動（上述以外）
- 主に国外を対象とする内閣府主催以外の国際交流活動（例：スタディーツアー等）
- 主に国内を対象とする内閣府主催以外の国際交流活動（例：国際教育支援等）
- 国内外の災害復興支援（東日本大震災復興支援活動、熊本地震復興支援活動等）
- 各都道府県における事後活動組織の活動（定例会、独自の活動等）
- 街おこし等の地域密着型の社会活動 その他 上のどれも参加していない。

<p>問6-1.問6で「その他」を選んだ方は、具体的に御記入ください。</p>	<div style="border: 1px solid black; height: 50px;"></div> <p style="text-align: right;">残り文字数150</p>
<p>問6-2.問6で「上のどれにも参加していない」を選んだ方は、「参加しなかったのはなぜですか？」</p>	<p> <input type="radio"/> 時間が無かったから <input type="radio"/> 事後活動に関して知識や関心が無いから <input type="radio"/> 上述のような事後活動の機会があることを知らなかったから。 <input type="radio"/> その他 </p>
<p>問6-3.問6-2で「その他」を選んだ方は、具体的に御記入ください。</p>	<div style="border: 1px solid black; height: 80px;"></div> <p style="text-align: right;">残り文字数200</p>
<p>問7.内閣府の青年国際交流事業では、参加した青年を中心に組織された同窓会組織である日本青年国際交流機構（IYEO）が大きな事後活動組織としてあります。あなたは、IYEOに会員登録（入会）しましたか。</p> <p style="color: red; font-weight: bold;">※必須</p>	<p> <input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ </p>

< 修正

入力内容を
パソコンに保存する

次へ >

※「入力内容をパソコンに保存する」は、スマートフォン端末、タブレット端末ではご利用いただけません。

[このページの先頭へ](#)

令和2年度内閣府青年国際交流事業既参加青年フォローアップ調査

内閣府青年国際交流担当室

回答者へのメッセージ

こちらは、内閣府青年国際交流事業のフォローアップ調査です。調査対象は、平成27年度及び令和元年度の事業参加者の方です。質問は全部で11問あります。コメント欄の記載によりますが、5分～15分程度で記入できる内容です。今後の事業の発展のために御協力いただけると幸いです。

【注意事項】

氏名・メールアドレスについては、いただいた御意見・御質問の主旨が不明確な場合などに問合せをさせていただくために記入いただくものです。記入いただいた個人情報は他の用途には使用いたしません。

必要事項を記入後、[次へ]ボタンをクリックしてください。
[修正]ボタンをクリックした場合、本ページで記入頂いた内容が消える場合があります。

- 文字化けを防ぐため、半角カタカナ、丸数字、特殊文字は使用しないでください。使用された場合、一部特殊文字は規則に従い、自動的に置き換えて受信を行います。あらかじめ御了承ください。（詳細は「置き換え規則について」をご覧ください。）

1. 内容入力

2. 確認

3. 完了

問7-1「はい」を選んだ方は、今後IYEOがどのような組織であると活動継続しやすいと思いますか。

残り文字数300

< 修正

入力内容を
パソコンに保存する

次へ>

※「入力内容をパソコンに保存する」は、スマートフォン端末、タブレット端末ではご利用いただけません。

[このページの先頭へ](#)

令和2年度内閣府青年国際交流事業既参加青年フォローアップ調査

内閣府青年国際交流担当室

回答者へのメッセージ

こちらは、内閣府青年国際交流事業のフォローアップ調査です。調査対象は、平成27年度及び令和元年度の事業参加者の方です。質問は全部で11問ありますが、コメント欄の記載によりますが、5分～15分程度で記入できる内容です。今後の事業の発展のために御協力いただけると幸いです。

[注意事項]

氏名・メールアドレスについては、いただいた御意見・御質問の主旨が不明瞭な場合などに問合せをさせていただくために記入いただくものです。記入いただいた個人情報は他の用途には使用いたしません。

必要事項を記入後、[次へ]ボタンをクリックしてください。
[修正]ボタンをクリックした場合、本ページで記入頂いた内容が消える場合があります。

- 文字化けを防ぐため、半角カタカナ、丸数字、特殊文字は使用しないでください。使用された場合、一部特殊文字は規則に従い、自動的に置き換えて受信を行います。あらかじめ御了承ください。（詳細は「置き換え規則について」をご覧ください。）

1. 内容入力

2. 確認

3. 完了

問7-2「いいえ」を選んだ方は、なぜですか。

- 事後活動を行う意義を感じないから
- IYEOに入って事後活動を行う意義を感じないから
- IYEOに入る意義を感じるが、事後活動研修費（入会金）3万円を払うほどではないから
- 入るタイミングを逃したから
- その他

問7-2で「入るタイミングを逃したから」と回答された方は、IYEOから入会の案内を差し上げますので、メールアドレスを改めて御記述ください。

残り文字数200

問7-2で「その他」を選んだ方は、具体的に御記入ください。

残り文字数300

< 修正

入力内容を
パソコンに保存する

次へ >

※「入力内容をパソコンに保存する」は、スマートフォン端末、タブレット端末ではご利用頂けません。

[このページの先頭へ](#)

令和2年度内閣府青年国際交流事業既参加青年フォローアップ調査

内閣府青年国際交流担当室

回答者へのメッセージ

こちらは、内閣府青年国際交流事業のフォローアップ調査です。調査対象は、平成27年度及び令和元年度の事業参加者の方です。質問は全部で11問あります。コメント欄の記載によりますが、5分～15分程度で記入できる内容です。今後の事業の発展のために御協力いただけると幸いです。

[注意事項]

氏名・メールアドレスについては、いただいた御意見・御質問の主旨が不明確な場合などに問合せをさせていただくために記入いただくものです。記入いただいた個人情報は他の用途には使用いたしません。

必要事項を記入後、[内容確認画面へ進む]ボタンをクリックしてください。
[修正]ボタンをクリックした場合、本ページで記入頂いた内容が消える場合があります。

- 文字化けを防ぐため、半角カタカナ、丸数字、特殊文字は使用しないでください。
使用された場合、一部特殊文字は規則に従い、自動的に置き換えて受信を行います。
あらかじめ御了承ください。(詳細は「置き換え規則について」をご覧ください。)

1. 内容入力

2. 確認

3. 完了

<あなた御自身について伺います。>

問8 あなたの現在の年齢を教えてください。

※必須

18～19 20～24 25～29 30～34 35～39 40～44 45以上

問9 あなたの性別をお答えください。

※必須

男性 女性 答えたくない

問10 あなたの現在の就業状況をお答えください。
 必須

1 国会議員・地方議員・地方自治体の首長 2 企業経営者 3 国際機関職員
 4 民間企業勤務（正社員） 5 民間企業勤務（正社員以外）
 6 NPO（特定非営利活動法人、公益法人、社会福祉法人等）代表
 7 NPO（特定非営利活動法人、公益法人、社会福祉法人等）職員 8 国家公務員 9 地方公務員
 10 大学教員 11 小学校・中学校・高校等の教員 12 自営業 13 大学院生・研究生
 14 大学生（学部）・専門学校生 15 海外大学に在籍（留学生） 16 無職（学生以外）
 その他：

問10-1 「その他」を選んだ方は、具体的に書記入ください。

残り文字数150

問10-2 【問10で1～13又はその他を選んだ方のみ回答】あなたはいわゆる国際関係業務や地域社会に貢献する業務に従事していますか。いずれか一つ選択してください。

主に国際関係業務に従事している。 主に地域社会に貢献する業務に従事している。
 今はその種の業務に従事していない。

問10-3 【問10で14～16を選んだ方のみ回答】あなたは今後いわゆる国際関係業務や地域社会に関係する業務に従事したいですか。いずれか一つ選択してください。

主に国際関係業務に従事したい。 主に地域社会に貢献する業務に従事したい。
 その種の業務に従事するつもりはない。

問11 その他、御意見等ありましたら書記入ください。

残り文字数300

< 修正

 入力内容を
パソコンに保存する

内容確認画面へ進む >

※「入力内容をパソコンに保存する」は、スマートフォン端末、タブレット端末ではご利用頂けません。

[このページの先頭へ](#) 

資料2 内閣府青年国際交流事業の概要(平成27年度)

<p>国際青年育成交流事業</p>	<p>日本青年の海外派遣及び外国青年の日本招へいの二つの事業から構成 昭和34年度及び平成6年度の当時の皇太子殿下御成婚記念事業を、令和元年度のお代替わりを契機に発展(昭和34年度に「青年海外派遣事業」として開始し、昭和37年度開始の「外国青年招へい事業」と合わせて平成6年度から「国際青年育成交流事業」として実施) 国際協力活動の現場の視察・体験、課題別視察及び訪問国青年とのディスカッション、ホームステイ等を実施 日本青年等48名を世界3か国に18日間派遣、外国青年52名を世界6か国から16日間招へい</p>
<p>日本・中国青年親善交流事業</p>	<p>日中平和友好条約の締結を記念し、日本と中国の両国政府の共同事業として昭和54年度から開始 日本青年等30名を12日間派遣、中国青年30名を12日間招へい</p>
<p>日本・韓国青年親善交流事業</p>	<p>昭和59年の日本・韓国共同声明及び昭和60年の日韓国交正常化20周年を踏まえ、日本と韓国両国政府の共同事業として昭和62年度から開始 日本青年等30名を15日間派遣、韓国青年30名を15日間招へい</p>
<p>青年社会活動コアリーダー育成プログラム</p>	<p>社会活動の中核を担う青年リーダーの育成を目的に平成14年度から開始(高齢者関連、障害者関連、青少年関連の3分野を対象) 社会活動に携わっている日本青年と外国青年が討議、交流を実施 日本青年等27名(受入自治体からの派遣青年は招へい時の地方プログラムに協力)を先進国3か国に10日間派遣、外国青年39名を同3か国から15日間招へい</p>
<p>「東南アジア青年の船」事業</p>	<p>日本とASEAN各国との共同声明に基づいて、昭和49年度から開始 日本青年約40名とASEAN10か国の青年約280名が約40日間船内などで共同生活をしながら、ディスカッションや各国の文化紹介、クラブ活動など各種の交流活動を行い、ASEANの国々を訪問する。日本及び寄港国では、表敬訪問やホームステイ、施設見学、地元青年との交流活動を実施</p>
<p>次世代グローバルリーダー事業</p>	<p>「青年の船」事業及び「世界青年の船」事業の成果を継承して新たに実施される事業 急速に進展するグローバル社会の各分野で活躍できる青年リーダーを育成するため、日本青年120名が10か国の青年120名と共に日本国内及び船上で研修(陸上研修・船上研修)を実施し、寄港地としてインド及びスリランカを訪問</p>

資料3 内閣府青年国際交流事業の概要(令和元年度)

<p>国際社会青年育成事業</p>	<p>日本青年の海外派遣及び外国青年の日本招へいの二つの事業から構成 昭和 34 年度及び平成 6 年度の当時の皇太子殿下御成婚記念事業を、令和元年度のお代替わりを契機に発展(昭和 34 年度に「青年海外派遣事業」として開始し、昭和 37 年度開始の「外国青年招へい事業」と合わせて平成 6 年度から「国際青年育成交流事業」として実施) 派遣地域ごとにテーマを設け、それぞれ 2 か国を訪問し、国ごとの違いを理解。国際協力活動の現場の視察・体験、課題別視察及び訪問国青年とのディスカッション、ホームステイ等を実施 日本青年等 41 名を世界 3 地域 6 か国に 18 日間派遣、外国青年等 47 名を世界 6 か国から 16 日間招へい</p>
<p>日本・中国青年親善交流事業</p>	<p>日中平和友好条約の締結を記念し、日本と中国の両国政府の共同事業として昭和 54 年度から開始 日本青年等 28 名を 12 日間派遣、中国青年 30 名を 12 日間招へい</p>
<p>日本・韓国青年親善交流事業</p>	<p>昭和 59 年の日本・韓国共同声明及び昭和 60 年の日韓国交正常化 20 周年を踏まえ、日本と韓国両国政府の共同事業として昭和 62 年度から開始 日本青年等 29 名を 15 日間派遣、韓国青年 30 名を 15 日間招へい</p>
<p>地域課題対応人材育成事業 「地域コアリーダープログラム」</p>	<p>社会活動の中核を担う青年リーダーの育成を目的に平成 14 年度から開始(高齢者関連、障害者関連、青少年関連の 3 分野を対象) 社会活動に携わっている日本青年と外国青年が討議、交流を実施 日本青年等 27 名(受入自治体からの派遣青年は招へい時の地方プログラムに協力)を先進国 3 か国に 10 日間派遣、外国青年 27 名を同 3 か国から 15 日間招へい</p>
<p>「東南アジア青年の船」事業</p>	<p>日本と ASEAN 各国との共同声明に基づいて、昭和 49 年度から開始 日本青年等 40 名と ASEAN10 か国の外国青年等 288 名が船内などで共同生活をしながら、ディスカッションや各国紹介、PY セミナーなど各種の交流活動を行い ASEAN の国々を訪問する。日本及び訪問国では、表敬訪問やホームステイ、課題別視察、地元青年との交流活動を実施</p>
<p>「世界青年の船」事業</p>	<p>明治 100 年記念事業のひとつとして昭和 42 年度に開始された「青年の船」事業に由来する事業 急速に発展するグローバル社会の各分野で活躍できる青年リーダーを育成するため、日本青年等 115 名が世界 10 か国の外国青年等 112 名と共に日本国内及び船上で研修(陸上研修・船上研修)を実施し、寄港地としてメキシコを訪問</p>



1. 沿革

日本青年国際交流機構(International Youth Exchange Organization of Japan 略称 IYEO)は、昭和 34 年度から始まった内閣府(総理府・総務庁)が行ってきた青年国際交流事業「青年海外派遣」「青年の船」「東南アジア青年の船」「日伯青年親善交流」「日本・中国青年親善交流」「オマーン親善交流」「国際青年年記念青年海外特派員派遣」「日本・韓国青年親善交流」「世界青年の船」「国際青年育成交流」「国際社会青年育成」「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」「グローバルリーダー育成事業」「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」「地域課題対応人材育成事業」「地域コアリーダープログラム」の各事業の既参加青年で組織されており、会員数は約 1 万 9 千 5 百名(現存会員数約 1 万百名)に達しています。

沿革をたどると、昭和 36 年、「青年海外派遣」事業の既参加青年組織として「日本青年海外派遣青友会」が結成され、次いで昭和 43 年「青年の船」事業の既参加青年組織として「青年の船の会」が組織され、昭和 60 年には活動組織としての確立を目指して両者が統合し「日本青年国際交流機構」が発足しました。

2. 目的・組織

日本青年国際交流機構は、その規約に「青少年国際交流事業で得た成果を踏まえつつ、国際理解を深め、国際親善に寄与し、もって広く社会に貢献するとともに、会員相互の交流と研鑽を図ることを目的とする」と規定し、この目的に沿った活動を行うために、各都道府県が実施している国際交流事業に参加した青年たちと連携を取りながら全国 47 都道府県に都道府県青年国際交流機構を置いています。その名称は、原則として「都道府県青年国際交流機構」ですが、伝統に基づいた独自名称を称しているところや、都道府県事業の既参加青年との合同組織の場合には別名称を称しているところもあります。また、47 都道府県の各組織は、一般財団法人青少年国際交流推進センターの都道府県団体会員に登録されています。

3. 活動

日本青年国際交流機構の中央組織は、会員相互の交流を図り、都道府県での活動が円滑に行われるよう連絡調整の役割を果たすとともに、内閣府青年国際交流事業に参加した外国青年との連携強化を推進しています。

都道府県青年国際交流機構は、地域の国際交流活動の振興に寄与し、広く社会への活動の輪を広げていくとともに、内閣府の行う青年国際交流事業の発展に協力することが主な活動です。

4. 充実・強化

日本青年国際交流機構では、青少年国際交流事業既参加青年の事後活動としての国際交流活動を一層発展させ、各地域での交流活動を充実、強化するために、ボランティアを強力に支援できる体制の確立が不可欠であると考え、公益法人の設立を目指して長年にわたり取り組んできました。この趣旨が理解され、平成 6 年 4 月財団法人青少年国際交流推進センターの設立が許可され、平成 25 年 4 月に一般財団法人に移行しました。

日本青年国際交流機構は、同センターと密接な連携の下に、国際交流活動を基本とした社会に貢献しうる活動を目指しています。

日本青年国際交流機構（IYEO）

住 所	〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 2-35-14 東京海苔会館 6 階 一般財団法人青少年国際交流推進センター内
電話番号	03-3249-0767
FAX 番号	03-3639-2436